

# 秋空の下に庶民の息吹！

## 第三十四回「池島ふれあいまつり」に数千人

天高く澄み切った秋空の下、至る所に出会いと交流の花が咲き、庶民の息吹がみなぎりました。毎秋恒例の区内最大級の地域文化イベント「池島ふれあいまつり」が今年も十一月二十二日（日祝）に池島公園で催され、数千人でにぎわいました。主催は池島地域活動協議会と池島地区社会福祉協議会と海の子学園池島寮。日赤奉仕団地域振興会池島連合と港区民生委員協議会女性部会と池島小学校と同校PTAが協賛。三十四回目。

## 至る所に出会いと交流の花、地域挙げ準備した区内最大級行事

★「絆が強いふれあい」と実行委員長

午前十時、大応援と手拍子の中、児童福祉施設「海の子学園・池島寮」の子供たちによる元

気一杯の「南中ソーラン」でオープン。

開会式では平岡俊治・実行委員会副委員長

（池島地域活動協議会会長）がこの催しの歴史

に触れ、「昭和五十八年、『お年寄りから子供ま

で誰もが大事にされる地域にしよう』と池島小

で始まり、会場をこの公園に移し、内容を充実

させながら手づくりで続けてきました。毎年数

千人が参加し、港区全体を巻き込む規模に発展

したのは『事故のないように』との実行委など

「オーブリングを飾った海の子学園・池島寮の  
元気な『南中ソーラン』」<sup>①</sup>と、可愛い歌声に  
声援が飛んだ池島保育園・年少組の歌<sup>②</sup>



関係者の努力の成果であると同時に、地域の皆  
様のまちづくりへの熱い思い、日頃の地域活動  
の積み重ねの賜物<sup>たまもの</sup>。この催しを通じて、人と人  
とのふれあいが更に深まり、地域の絆<sup>きずな</sup>が一層  
強まるよう願っています」と感謝と期待を表明。  
また鈴木良彦<sup>よしひこ</sup>・実行委員会参事<sup>さんご</sup>（池島小学校長  
は、同校の学習発表会を兼ねるといふこの催し  
の特徴に触れ、「この公園でリハーサルした時に  
頂いた拍手や『上手やな』の声に子供たちが見  
せた笑顔から、子供は地域の励ましを糧<sup>かて</sup>に成長  
するものだ」と実感しました。子供たちは本番を  
前に緊張していますが、練習の成果に温かい声

援をお願いします」と呼びかけました。

### ★歌や踊りが次々と登場

このあと舞台は地元男女四人のユーモアを  
交えた爽やかな司会で進行。午後三時半ごろま  
で、池島保育園児の歌と踊り、池島小児童の学  
習発表、池島生涯学習ルーム「ミルキーウェ  
イ&スターダスターズ」のコーラス、築港の障  
害者作業所「あゆみ作業所」の歌と踊り、地元  
の少年少女空手教室「佐空会」の演武、太鼓サ  
ークル「三風会」の和太鼓演奏、ピエロ<sup>ゆあさ</sup>（湯浅  
博さん）の大道芸、李綾子<sup>りあやこ</sup>韓国伝統舞踊研究  
所の韓国舞踊などが次々と登場し、最後は「ホ



→鉢巻きと法被姿もりりしかった池島保育園・  
年長組の遊戯<sup>①</sup>と、『大きくなあれ』を大迫力  
で群読する池島小学校一・二年生<sup>②</sup>

「言葉遊び『あいいうえお』を楽しげに演じる池  
島小学校三・四年生<sup>①</sup>と、感慨込めて『ひま  
わりの約束』を歌う池島小学校五・六年生<sup>②</sup>



テルディナー券「お肉券」「焼肉食事券」「お米  
「クリスマスケーキ」「果物」などが当たる「ラ  
ッキー抽選会」で盛り上がりました。

### ★「素晴らしい思い出」と池島小学校長

このうち学習会を兼ねた児童や園児の舞台に  
はカメラやビデオを向ける保護者の姿が至る所  
に。その中で池島小一・二年生は「春（夏・秋・  
冬）が来たら大きなあれ、イエー！」の叫び  
声も元気に『大きくなあれ』の群読<sup>ぐんよみ</sup>などを、三・  
四年生は「お好み焼きを焼いてえな」「たこ焼  
きたらぐく食べたもん」などの台詞も愉快に  
言葉遊び歌『あいいうえお』などを、五・六年生



←『恋するフォーチュンクッキー』を焼刺と歌う「あゆみ作業所」の仲間と「黒猫のタンゴ」を明るく歌う生涯学習ルームメンバー①②



は管楽器と打楽器の「ミラボも壮大に合奏『宇宙戦艦ヤマト』」などを、それぞれ披露しました。鳴りやまぬ声援と拍手の中、鈴木校長が再び挨拶に立ち、「これだけ多くの人たちを前に発表する機会は（卒業後は）まずないでしょう。子供たちには素晴らしい思い出、素晴らしい経験になりました。これから何かと『迷惑をおかけするかもしれませんが、温かな目でも支援を』と呼びかけました。

★模範店やバザー、高齢者も子供も

会場を囲むように建ち並ぶ地域団体のバザーや飲食模擬店、魚市や野菜市、餅つきなどの「

ーナーでは、立ち込める匂いや湯気の間から「安いよ」「おいしいよ」などの呼び声。やはり地域団体などによるふれあい喫茶や健康相談にはお年寄りが集い、ミニス、トランプリン、金魚すくい、人形劇、けん玉、ヨーヨー釣り、シャボン玉、スーパースポーツなどには幼児らの歓声が絶えず、臺草履作りや木工教室などのコーナーでは若い世代が高齢者から真剣な表情で物作りを教わっていました。

★「ちゃんこ鍋」の賑わい

ぶつからないと歩けないほどの人々。幼児に餅を食べさせながら手を引くヤンママ。



→豪快なばちさばきに感嘆の声が上がった「三風会」の和太鼓演奏と、きびきびした動きに拍手が送られた「佐空会」の空手演武①②

「すっかり名物になった」たけのこ学童の餅つき①と、押すな押すなの盛況だったバザー②



焼きそばをかきこみながら歩き回る若者グループやカップル。中央のテーブル席では我が家にいるかのようなリラックスした表情で飲食する家族づれや、穏やかな笑顔で舞台上に拍手を送る老夫婦。「お久しぶりやなく、元気が」はい、何とか頑張ってます」などと言葉を交わす恩師と教え子。地域のあらゆる層と世代が集い、至る所に出会いと交流の花が開きます。「何でもあり」の会場はさながら「ちゃんこ鍋」。庶民の活力が、戦乱や貧困、災害や伝染病、殺人や汚職が蔓延する世界の鬱屈した空気を吹き飛ばしたかのように感じられました。

★「健全な遊びが一杯」と「二十代男性

「今年も幼児に一番人気だった『ミニS』運転」  
 ⑤と、「丸太切り」を男児に教える高齢者⑥



「このうち中央のテーブル席で醤油餅などを  
 食べながら舞台に拍手を送っていた七十代の女  
 性」入は「すぐ近くから来ました。毎年、最初  
 の南中ソーランを一番の楽しみにしています。  
 よく練習して元気があり、私たちもパワーをも  
 らいます。他にも安くておいしいものが一杯あ  
 って、とても楽しいです」と話していました。  
 同じく中央のテーブル席で両親や長女の真奈  
 ちゃん③と一緒に休憩していた山脇慎介さ  
 ん③⑤は「妻が田中保育所のバザーを出して  
 いる関係で、初めて参加しました。真奈はコー  
 ー釣りをしたり、ミニSに乗ったりしてこ  
 機嫌でした。木工など自然を生かした健全な遊  
 び」

びがたくさん用意され、美味しくて安い食べ物  
 が一杯あるのも嬉しいですね。これだけの規模の  
 イベントを準備された地域の方々に感謝してい  
 る気持ちで一杯です」と話していました。

### ★「楽しく交流できる」と青年

また、お喋りしながら会場を回っていた山本  
 南さん③先小学校八年女児四人グループは  
 「二人ひとり毎年来ていますが、今年は初め  
 て四人一緒に来ました。焼き鳥などを食べまし  
 たが、ほかに色々な食べ物を安く食べられる  
 のが嬉しいです。私たちは学習発表会で『西遊  
 記』を歌劇で演じたのですが、池島小学校の舞  
 台をみて、『この子たちもすごいね』と刺激にな  
 りました」などと話していました。



→巨大なシャボン玉に「機嫌の幼児ら⑤」と、け  
 ん玉を男児らに教える学童保育指導員⑥

「ふれあい喫茶でなごむ人たち⑤」と「健康相  
 談コーナーで血圧を測ってもらった高齢者⑥



同じく会場を回っていた新見歌菜さん②⑥  
 「池島在住」は「たこ焼き・唐揚げ・焼き鳥を  
 食べました。小さい頃から何度も来ていますが、  
 地元の皆さんが力を合わせて準備され、地域の  
 人たちが楽しく交流できる、とても素晴らしい  
 イベントだと思います」。その横で、歌菜さんと  
 手をつないでいた男子高校生②⑥「此花区在  
 住」は「此花区にもイベントは幾つかありますが、  
 こんなに賑わっているのは初めてです。歌  
 菜さんと一緒に参加できて本当に良かったです」  
 と話していました。

### ★「大変だがやりがい」と実行委員



←舞台を見守る「進行担当の実行委員」(上)と、来場者の安全を守った「防犯担当の実行委員」(下)



会場にはこうした一般来場者のほか、実行委員として様々な役割をボランティアで担う人たちの姿がありました。その一人で、「防犯」の腕章を付け、公園を出入りする人たちに「車が来ますよー」などと声をかけていた山本修さん(六五)「ベイシティ大阪町会副会長」は「来場者の安全に一番気を使います。町会役員やネットワーク委員をしている関係で、数年前から実行委員としてお手伝いさせて頂いていますが二週間前から三回ほど打ち合わせがあり、当日は朝八時から準備にかかり、終わってからも小一時間は後片付けをします。大変といえば大変ですが、皆さん喜んで頂けることに

やりがいを感じます」と話していました。

### ★心を合わせる大切を示す

地域のふれあいを目的に、あらゆる層が一年がかりで準備を進め、当日でも音響・進行・案内・清掃・防犯・自転車整理など細部にわたって任務を分担し、三十数年という長期に亘って続けられてきた「池島ふれあいまつり」。今、個人主義が幅を利かす中で失われつつある「心を合わせる」ことの大切さを地域の大人たちが身を以て青少年に示し続けている——活気の中にそんな姿も見えてくる催しでした。

### ★求められる地域活動の検証

その一方で、昨年度から港区の全小学校区で



→来場者にごみの分別を呼びかける「清掃担当の実行委員」(上)と、舞台上に拍手を送る来場者(下)

「地域活動協議会」という新たな組織が発足し、それまで大阪市から各団体へ個別に下ろされていた補助金を、昨年度からはその組織が区役所からまとめて受け取って事業ごとに配分する形になり、この催しでもそのやり方が適用されたことについて、ある実行委員は「予算面で格段に厳しくなりました」と今後の運営に不安をのぞかせていました。地域活動の先頭に立つ人たちのこうした声を真剣に受け止め、その不安を解消し、意欲を支援する方向で、今後の地域活動のあり方が市民協働で検証・改善されることとが求められます。

**住まいの防犯レベルを高めよう**

①ワンドア・ツーロックは常識  
②ピッキングに強いカギに交換  
③窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎0120-70-5569

**(ア) 港カギ防犯センター**

安全・安心を  
ご提供します

港区港晴1-4-8  
(港晴小学校並び)

港カギ防犯センター

☆大阪府鋭前技術者防犯協力会会員  
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

# 叫びたいわ！

ながすな よしあき

永砂 義明さん（七六歳 八幡屋）

## 丹後半島に米軍基地が

狙う者は狙われる 子孫のため反対を

皆さん、「存知でしょうか。安倍政権が、日本で二三番目の米軍基地を、私たちの住む近畿の一角に造らつていゝことぞ。

### ◆そこは私の生まれ故郷

その場所は丹後半島の北端、経ヶ岬灯台のある所。すべ目の前には日本海が開ける、日本でも有数の絶景ポイントです。同半島の南にはあまの橋立、西にも久美浜などの景勝地があり、他にも至る所に伝説や昔話が語り継がれ、またこれからの季節には松葉蟹の中でも最高級とされる間人蟹が間人漁港に水揚げされ、観光客を招いています。そして、そこは私の生まれ故

郷でもあり、経ヶ岬からは、西へわずか十数分の位置にあります。

### ◆北朝鮮・中国向けのレーダーが

いつもあつて、そんな故郷の目の鼻の先に造られようとしているのが米軍基地であり、その中核施設が「Xバウンドレーダー」なのです。その能力は「二〇〇〇キロ以内なら野球ボールも確認できる」といふから驚きです。一体何のためのレーダーなのでしょう。向けられるのは「北朝鮮・中国」。名目は「ミサイル防衛」。つまり「北朝鮮や中国から飛んでくる弾道ミサイルを探知・追尾し、強力な新型迎撃ミサイルで撃ち落とす」ための最新鋭レーダーなのです。

### ◆近くに原発銀座や琵琶湖

基地のすぐ近くには若狹湾の「原発銀座」。そのすぐ南は琵琶湖、誰もが知る「近畿の水がめ」です。もつその基地が、そつした「仮想敵国」の標的にでもなつたら、私たちは水も飲めない、生きることもできない最悪の事態に陥りかねません。「狙う者は狙われる」といふのはサルでも分かる軍事常識。もはや丹後だけの問題ではないのわ。

### ◆「軍事機密」連発の説明会

そのレーダーがなんと先口、それも人が寝ている深夜、秘かに搬入されました。地元説明会で当局者は「丁寧」に、良く分かるように説明します」と前置きしましたが、誰かが質問すると「それは軍事機密ですので答えられません」。別の人質問すると「これも軍事機密ですの……」。結局、肝心なことは何も明らかにしないまま。これでは「説明はしました」といつアバイツくりといふか考えられませんでう。

### ◆集団的自衛権とらに危険が

既に米兵が数十人やつて来て、我が物顔で街を闊歩。交通事故も四件起つており、「夜は怖くて出られない」といふ声が上がつていま。説明会で約束された「安全・安心」は早くも崩れています。その上に集団的自衛権が行使されれば、「米国が攻撃されたから」と総反撃の最前線基地になるといふ、さらに大きな危険が、この半島を、近畿全体を覆つのです。

子や孫にこんな物騒な物を残してはなりません。今からでも遅くありません。反対の声をあげましょ。平和な幸せの土国なのですから。

小西 正敏さん（六三歳、田中）



# 地域活性化の近道は

地活協より町会立て直しこそ

現在、大阪市の各区・各地域には振興町会（町会という組織があります。その活動の柱は、ホームページにyomau）①ふれあいのあるまちづくり②情報のあるまちづくり③安全・安心なまちづくり

づくり」となっており、具体的な活動としては私の所属する町会を例にとると、①祭りや行事の開催②公園の清掃③外灯の設置・管理③防災訓練④共同募金⑤行政広報の回覧などがあります。そして、こうした活動は、大半の住民の手で、大半の住民を対象として行なわれるがゆえに、総体的に見て、地域住民が安全・安心・安定して日常生活を送るためには、やはり必要なのだと思います。

◆高齢化などで停滞・形骸化

ところが近年、その振興町会の活動が、他の様々な団体・組織と同様、高齢化に伴う担い手不足や地域コミュニティの希薄化によって、停滞あるいは形骸化しているように思われます。また、名目上は「自主的なボランティア団体」であるため、大阪市からの補助金はなく、経費はほぼ町会費で賄われており、活動資金の乏しさから、活動の縮小化傾向も見られます。

◆地活協がとって代わったが…

こうした現状をついた形で、橋下市長は平成二十五年四月、この振興町会に代わる組織として、各区・各地域で「地域活動協議会（地協協）」

を立ち上げました。振興町会の連合組織である連合振興町会もこの構成員に組み込まれたので、その結果、振興町会の果たす役割は以前より小さくなり、活動の停滞化・形骸化・縮小化にも拍車がかかっているように思われます。

◆地活協はプラスになったか？

「地域自らの手によるまちづくり」という地  
活協の趣旨そのものは理解できないことはあり  
ません。しかし、それを長年に亘<sup>わた</sup>って曲がりなり  
にも担<sup>お</sup>ってきたのが振興町会であり、その上  
に同様の組織を置くことは、まさに屋上屋を  
架す愚行といわざるを得ません。また事実、二  
年目に入<sup>い</sup>った地活協の活動が地域活性化へプ  
ラに働いている様子も残念ながら見られませ

◆町会本来の姿に戻すように

まちづくりの担い手は本来、長い歴史があり、大半の老若男女が参加し、また地域課題のほとんどを力バーでできる振興町会であり、それが弱体化したからといって否定するのではなく、それを行政と住民が力を合わせて本来の姿に立て直すところ、地域活性化への近道だと私は考えますが、皆さんはどうお考えでしょうか。



# あさやけ

「情夫がいなくてやめていけないわ」と居直る遊女のように、このごろの新聞はみな秘かにスポンサーを持ち、その宣伝機関となつてしまつてゐる。それは政府であつたり、政党であつたり、野心的な政治家であつたり、また金力のある経済界のボスであつたりするが、どれもみな結局は情夫である。このよつた新聞によつて一般の民衆が眞実を知つたり公平な議論を聞いたりすることは、とてもできない。我が社は幸か不幸か独立孤高だ。政府を知らず、政党を知らず、もちろん野心ある政治家も知らない。ああ、我が社はただ正直と道徳に徹するという新聞本来の道を知るだけだ。もし偏つた言論を聞き、下心のあるねじ曲がつた記事を見ようと思つ者は、去つて他の新聞を読め」これは明治の代表的ジャーナリストで、『万朝報』の民主主義的な主張で幅広い読者を得た黒岩涙香（一八六二—一九一〇）が、その発刊に寄せた辞の抜粋（筆者意識）です。折しも慰安婦や

原発に纏わる朝日新聞の『誤報』が世間の批判に曝され、同紙は今や四面楚歌の状況に置かれています。確かに事実と違つた報道は避けるべきであり、そのため可能な限りの手立ては必要でしょう。が、そのことに神経を注ぐ余り、また誤報を恐れる余り、世のため人のために真実へ肉薄する姿勢を失つてしまつては、一体何のためのジャーナリズムか、ということになり兼ねません。その点をルポライターの鎌田慧さんは鋭く指摘し、たゞそれは原発事故報道（いわゆる「吉田調査」報道）については、『命令違反』『撤退』といった見出し表現の誤りを理由に、現場から六百五十人がいなくなつたといふ記事全てを否定してよいものだろうか」むしろ権力が隠した事実（明確な命令や指示ができず、混乱状態になる原発事故の恐ろしさ）を引っ張り出したことを評価すべきだ」とやうに述べています。筆者も同感です。その上さらに指摘したいのは、朝日も含めて日本の大手報道機関の大半が、自らの存立を左右するほどの強力な後ろ盾を持つてゐるという点。特に全国紙で独立孤高の報道を続けてきた新聞社は、戦前・戦中・戦後

を通じて皆無と言つても過言ではありません。今回の「スクープ」誤報・批判・萎縮はある意味、そついつた新聞の在り方、つまり、絶えず政府やその背後で睨みを利かす日米巨大資本の顔色を窺い、その『大本営発表』の籠の中で他紙と熾烈な出し抜き競争をするといつて、いわば遊女的な境遇から抜け出さずとして勇み足を犯し、主人や遊女仲間から袋叩きに遭つた、といつた点に本質があるように思われます。確かに特定のスポンサーなしによつていく難しさは、冊子購読料と読者カンパと僅かな広告掲載料以外に収入源を持たない本紙には痛いほどに感じられます。が、それに堪えてこの地域紙。先日もある有名な、かつ非常に良心的な経営姿勢を持つ大手企業グループから「これからは地方の時代。地域密着の報道を続ける港新聞さんを経済的・人的・継続的にバックアップしたい」と目の眩むような申し出がりましたが、先の姿勢を説明の上、丁重にお断わりしました。とつて、懐も、季節も、いよいよ厳寒の候。その中で、平成の、港区の『万朝報』たらんとする港新聞に、来年もつて期待。



# 自助・共助の質向上を

田中地活協が防災訓練積み重ね



→「自助・共助の質の向上を」と積み重ねられた  
田中地活協の防災訓練Ⅱ十一月三十日朝、田  
中小（写真は体験学習の説明を聴く参加者）

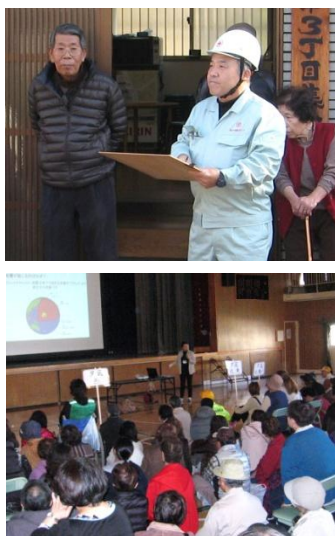
訓練の積み重ねで自助・共助の質の向上を。

東日本大震災以来、各地域で防災訓練が繰り返されていますが、このうち田中小学区（田中・夕凧）では十一月三十日（日）朝、田中地域活動協議会（田中地活協）主催の防災訓練が実施されました。昨年二月から重点を変えながら継続され、四回目。田中連合振興町会、港消防署、田中小学校、大阪市危機管理室、港区役所が協力。

## ◆各町会で安全確認、避難ビルへ

訓練は、一部に分かれ、最初の「町会別避難訓練」は「午前九時に（阪神淡路大震災のような）直下型地震が発生し、津波は発生せず」との想定で実施。①各家庭で自分や家族の安全を確認し②無事を示すタオルなどを玄関ドアなどに結んだ上で集合場所が集まる③各班長はタオルなどを目印に班員の安全確認をして回り④集合場所待機する町会長や防災リーダーに報告する⑤集約を済ませた町会長と防災リーダーの引率で一時避難ビルへ移動する」という手順で行なわれました。この中では町会や班の間で安全確認の程度にはづつきが見られましたが、その理由として「回覧板の遅れで訓練を知らない」などが挙げられました。

←安全確認の状況を点検する防災リーダー（田中三丁目）と、田中小講堂での防災学習②



## ◆スライドで防災を学ぶ

このあと全十四町会は田中小講堂に集まり、まず防災学習に参加。この中では大阪市危機管理室のコーディネーターがスライドを使い、①地震発生の仕組み②自助・共助・公助とは③田中地域の弱みと強みなどを説明。「自助・共助・公助が効果的に実施されるには事前準備が大切」「避難所で自分にできることをこれから登録しておきましょう」と呼びかけました。

参加者の中にはそつた呼びかけに込め、①医療・介護（医療・看護・介護・鍼灸・臨床心理士・マッサージなど）②ことば（英語・中

国語・韓国語・手話・点字など③専門技能(法律・ヘアカット・簿記・大工・イラスト・ギタ―・無線通信など)④生活支援(力仕事・裁縫・洗濯・トイレ掃除・ベビーシッター・子供の世話・トラックの運転など)ーの四分野に色分けされた「できますゼッケン」のいずれかを既に着けている人もかなり見られました。

#### ◆ 恐怖美感的「けむり」体験

「このあと会場を校庭に移し、災害時に役立つ四種類の体験訓練が、四グループに分かれて行なわれました。

「このうち、火災時に煙に巻かれる状態を体験できる「けむりハウス」では、参加者が数人す



「煙害の恐怖が語られた「けむりハウス」⑤と、「音声に従って」と強調された「AED」講習⑥

つに分かれてハウス内を次々と通過。「全然視界がきかんかったわ」「これで熱かったらパーンクになるな」などと恐怖が語られ、港消防署員からは、①実際にはこれに熱と有毒ガスが加わる②(ガスを吸い込まないため)口と鼻を塞ぐ③(煙は上にたまるので姿勢を低くする④(堂々めくりを避けるため)壁を伝うーなどのアドバースがありました。

#### ◆ 「AED」は音に従って

また、心臓の状態を電気ショックで元に戻す「AED(自動対外式除細動器)」の講習では、港消防署員が、①倒れている人がいたら車などに注意しながら近づき②頭を押さえながら肩を叩いて意識の有無を調べ③意識がなければ周囲に声をかけて「一九番通報やAED手配などを呼びかけ④胸や腹や口元の動きで呼吸の有無を調べ⑤呼吸が無いか弱いか不規則なら胸骨圧迫三十回と人工呼吸一回を繰り返し⑥AEDが到着したら電源を入れ⑦音声に従って電極パッドを右胸の上部と左胸の下部に貼り⑧その間にも胸骨圧迫は続け⑨AEDが心臓の解析を始めたら胸骨圧迫をやめて体から離れ⑩「電気ショ

「「難しい」の声も出た「ロープ結索」⑪と、「退路を確保して」と助言があった「消火器体験」⑫



ックが必要です」の音声の流れたら充電が始まり⑩「ショックボタンを押して下さい」の音声の流れたら誰も体に触れていないことを確認してショックボタンを押し⑪その後も胸骨圧迫を続けながら二分おきに流れる電気ショック必要の有無の音声に従い⑫救急車が到着したら全面的に任せるーなどと手順を説明しながら模範実演。参加者との間では「胸骨圧迫のポイントは何?」「↓胸の真ん中の硬い骨の下部分を、強く、速く、絶え間なく押すこと。押した後はいったん戻すこと」「胸骨圧迫についてそんなに強く押したら骨が折れるのでは」「↓「骨より心臓が大切。折れることを恐れず」「他人の



人工呼吸には抵抗がある」→「病気を抱いている人もいるので今はしなくてもよくなった」などのやりとりがありました。

#### ◆「難しかった」ロープ結索

また、水害時などに役立つ「ロープ結索」講習では、物をしっかりと縛れてそれ以上遠ざけない「まき結び」や、人体をしっかりと縛れてそれ以上縮まらない「もやい結び」を、消防署員や防災リーダーが参加者に実際にやってみてもらいながら指導。参加者からは「難しいなあ」「繰り返しが大変だな」などの声が聞かれました。

#### ◆「消火器」は退路を確保して

さらに、出火時に役立つ「消火器操作」の講習では、消防署員が、①まず消火器を火の近くへ持つていく②ピンを抜く③ホースを火に向けて④レバーを握る⑤手順を説明したあと、参加者が一人ずつ、模擬消火器（実際の粉ではなく水の入ったもの）からの水へ向けて水を噴射させました。署員からは「扱った時は必ず背中側に退路を確保しておくこと」「火が天井の高さになったら消火器での消火は無理。すぐに避難を」などのアドバイスが、また参加者との間では「消

火器はどのくらい持つのか」→「学校などの施設では定期点検の規定があるが、一般家庭では点検がない。二十年でも大丈夫な場合もあるが、一応は八年保証となっている」などのやり取りがありました。

#### ◆「区長は「地域防災計画」を強調

全ての訓練を終えた参加者は「炊き出し」「ナー」へ向かい、地域の女性陣が作ってくれた災害時用のおにぎりと味噌汁を飲食したあと、再び校庭に集り、終わりに当たり、田端尚伸・港区長が「地域独自の防災計画を作る意義」を、近江隆司・田中地活協会長が「公助を生かすために自助・共助の質を高める大切さ」を、木村



→「地域防災計画」を強調する田端区長（左）と「自助・共助」を強調する近江会長（右）

武三・田中地活協防災担当が「普段から訓練を積み重ねる重要性」を、それぞれ強調しました。

#### ◆「やりこ」改善を」参加男性

参加者の一人、上山恭二さん（五十九）は西中町会では「今夏に続いて二回目です。妻（世話役）や子供一人（大学生）と高校生も参加しました。災害時に役立つ体験を沢山できたこと特に『けむり体験』と『ロープ結索』は有意義でした。我が家では、①家具を固定する②食糧や生活用品を備蓄する③防災について話し合う④など普段から防災の備えをしています。各家庭でもすることが大切ですね。こうした訓練の積み重ねは大変重要ですが、今後のために敢えて注文点を挙げれば、たとえば防災学習では長時間の硬い内容よりも漫談や喜劇風のアレンジすればもっと集中できると思いました。さらに重要な点として、最悪ケースを想定した備えをもっと強調すべきであり、たとえば食糧や機械類は水に浸かれば使えなくなるので、備蓄場所を三階以上、この田中小なら屋上に小屋を建てて保管するなどの調整が求められるのではないのでしょうか」と話していました。



# 本番さながら緊迫感

## 天保山第五コーポで防災訓練



→ けが人救出・通報・煙害体験・消火器操作など  
本番さながらの緊迫感をもって行なわれた天  
保山第五コーポの防災訓練 十一月二日朝

「巨大地震が発生し、けが人が出た」など本番さながらの緊迫感で訓練が取り组まれました。十一月二日(日)朝に行なわれた天保山第五コーポ(築港二丁目、三棟に六二四戸・約千五百人居住)の防災訓練には住民三十数人と大阪市水上消防署の署員十数人が参加して「けが人救出」「通報」「火災時の煙」「消火器操作」などを体験。積み重ねと助け合いの大切さを受けました。

### ◆ けが人救出・二一九番通報

訓練は午前九時半に集会所前で開始。乾・防火管理者(同コーポ町会会長)が進行役を務め、谷・津波対策本部長(同コーポ管理組合理事長)が「皆さんの財産と生命を守る大切な訓練。本番の緊張感を持つて取り組みましょう」と呼びかけました。

これを受けて、まず「巨大地震が発生、三号棟エレベーターホールでけが人が出た」との想定で、松田・救助隊員と松尾・救助隊員が「救出」に向かい、同ホールで素早く人形を担架に乗せ、災害用無線機で本部へ状況を報告の上、集会所前まで運び込みました。

次いで「火災が発生した」との想定で、前田・

「地震発生でけが人が出た」との想定で「救出」に当たる救助隊員(上)と、「津波避難」の中で「簡易トイレ」などを確認した住民(下)



津波対策副本部長と防火理事三人(いずれも女性)が「二一九番通報訓練」に臨み、水上署員の「どこで燃えていますか」「何が燃えていますか」「負傷者はいますか」などの問いかけに「〇が燃えています」などと答えていました。

### ◆ 津波避難・煙害体験・初期消火

次に「津波が襲来した」との想定で、新田・防災委員長が参加者のうち十数人を二号棟二階へ誘導し、安全確認の上、「全員の無事を確認しました」と山田・防災副委員長に報告。山田副委員長はさらにそれを谷本部長に報告しました。また、この避難訓練の中では、各棟の倉庫に保

管されている災害時用の簡易トイレ（大型・小型）などの存在を確認しました。

次いで参加者は杉田・救助隊長の誘導で「煙ハウス」前に集まり、ハンカチなどで鼻や口を押さえながら、火災時の煙害を順次体験。さらに参加者は「初期消火訓練」に臨み、水上署員の「できるだけ火に近寄って」「しかし無理には近づかないように」などのアドバイスを受けながら、模擬消火器から的に向かって水を噴射させていました。

#### ◆津波から身を守る

こうして屋外での訓練が終わった後、参加者



→「火災が発生した」との想定で「一九番通報」を行なう防火理事の女性①と、「煙ハウス」で火災時の煙害の怖さを体験した男の子②

は集会所で『津波からどう身を守るか』と題するビデオ映像を鑑賞。津波理解のポイントとして、①破壊力が巨大である②スピードが恐ろしく速い③繰り返し襲ってくる④いったん潮が引いてから来るとは限らないなどを、避難のポイントとして、①海の近くで揺れを感じたらすぐ逃げる②弱く長い揺れにも要注意③避難した後でもさらに高い所をめざす④警報解除まで油断しないなどを学びました。

#### ◆積み重ねの大切さ

訓練の最後に水上署の古川・警防担当副署長が講評に立ち、「こうした訓練は、災害時にどれ



→水上消防署員の指導で消火器による「初期消火」訓練を行なう女性①と、『津波から身を守る』と題するビデオで学習する参加者②

だけ被害を少なくするかが目的。まずは皆さんの一体となった助け合いがものを言い、そのあとで私たち公助が来る。今日学んだことをぜひ本番で生かして下さい」と呼びかけました。

また乾町会長は「火は本当に恐ろしい。消火器の使い方に慣れておくように」と初期消火の大切さを改めて強調しました。

終了後、通報訓練を体験した三女性は「回目ですが、緊張しました。慌てないことが大切です」訓練は何度もしてきましたが、その度に積み重ねの大切さを感じます」などと話していました。

**1人で悩まないで！**

職場に組合のない人、アルバイト、パート、臨時・契約労働者……。ユニオンおおさかはひとりでも、誰でも入れる労働組合です。働く人々が地域で助け合う新しい組合です。毎月の会費は、収入に応じて1000～3000円。経験豊かなスタッフが親身になって解決へ努力します。まずお電話下さい。無料。秘密守ります。



**ユニオンおおさか**  
**6575-3133** 築港1-12-27 労働会館内



# 災害対策に市民の声を！

## 「港区震災対策協議会」が総会



→「災害対策に市区民の声を反映させよう」と開かれた「港区震災対策協議会」の第三回総会  
 会 十一月八日、天保山第二コーポ集会所で

「災害対策に市区民の声を反映させよう」と十一月八日（土）午後、築港三丁目の天保山第二コーポ集会所で「港区震災対策協議会」（西原みゆき会長、会員数八十三）の第三回総会が開かれました。会員ら約三十人が参加し、大阪市の防災の現状や新しい防災計画などについて認識と検証を深めました。

このうちメインの「特別講演」では、こはら孝志<sup>し</sup>大阪市長（日本共産党大正区選出）が「大阪市の津波対策の問題点と課題について」と題して講演。市の防災計画への見解を中心に、大要次のような内容を参加者に示しました。

### ◆「防潮堤耐震改修」問題あり

▽大阪市は一九九五年の阪神淡路大震災を教訓に、一九九六年度から港湾局所管の防潮堤約六〇キロのうち、老朽化した一七・八キロの耐震改修を進めているが、二〇二三年度までの十七年間に進んだのはまだ二五キロ（六・四キロ）。特に昨年度はわずかな予算でわずか二五〇キロ。一億あたり三〇〇万円かかるというが、予算配分が根本的に間違っている。

### ◆「被害想定」見直しは評価できる

▽大阪市は東日本大震災を受けて「南海トラフ巨大地震の被害想定」を昨年十月に見直し、そのうち津波による港区の死者は九八六五人（避難が速ければ四二二人）などとなっているが、防災字の権威である河田恵昭<sup>よしあき</sup>・関西大学教授の「最悪のケースを想定すべき」との主張が反映された内容であり、課題がはつきりしてきた点は評価できる。

### ◆「大阪市防災計画」問題あり

▽この被害想定を元に大阪市はこの十月十四日に新たな「地域防災計画」を公表したが、その中で「公助の限界」を強調して「自助・共助」を前面に出したのは、自己責任論をあり、公助を後退させる恐れがあり、同意できない。

▽またこの中で、公助が入るまでに自助・共助で持ちこたえるべき期間がこれまでの「三日間」から「十日間」に伸ばされたが、築港地区が津波被害に遭った場合に水がいつ引くかは未知数（つまり、いつ帰れるかわからない）というところを考えると、なお検討が必要だ。

### ◆「大阪都構想」問題あり

▽「大阪都構想」を巡る論戦が市議会で行な

われたが、大阪市を解体すれば、防災という点だけ見ても、市の港湾・消防・下水などの権限・財源を府が握り、市民を守る力が弱まり、市民の声も届きにくくなるのが明らかになった。現在の「政令指定都市」としての権限をフルに生かすことが重要だ。

#### ◆「港湾同運協方針」に問題あり

▽大阪市港湾局は毎年度「運営方針」を出しているが、港湾運営を「経営」と捉える認識には問題があり、またその課題の第二に「国際競争力の強化」、第三に「災害に強く安全な港の実現」を挙げているのは順序が逆だ。

▽またその今年度予算では、防潮堤の耐震補強に国が示す「十億」の枠内の十九億円が充てられたが、その枠は市長裁量で超えらわなければならないので枠を超えても増やすべきだ。

▽同じくその今年度予算で、大型船舶の航路を深く広く浚渫<sup>しほくせき</sup>するためとして四・五億円のうち市負担は一四・一億円が組まれたが、これは不要不急の大型開発であり見直すべきだ。

#### ◆「津波避難民間」の倍増を評価

このあひ総会では同協議会の「昨年度活動報

告」が行なわれましたが、この中では、今年八月に港区役所が発行した「防災マップ」改定版について、「津波避難」の民間施設が一昨年から倍増（一四・五十一）した点は評価できるが、受け入れが平日昼間に限定されるなどは改善されておらず、万一の場合に十分機能するが不安が残る」としている点が注目されました。

#### ◆「ねい」協同の輪を「アピール」

このほか総会では同協議会の昨年度決算・監査報告や今年度活動計画・予算案、新役員選出などが論議・承認され、最後に「大阪市の防災計画にふさわしい予算や体制など必要な具体策を求めよう」「地域で助けあう力を培<sup>つちか</sup>っていく」「ねい」協同の輪を広げるために力を合わせよう」となごと呼びかける「アピール」を全員の手拍子で採択しました。

#### ◆「自助努力」や「都構想」に懸念

以上の総会での論議や終了後には参加者から次のような感想・意見が出されました。

「私の住むマンションでは管理組合で防災予算を組んで備蓄物資を確保するなど精一杯努力している。市の新しい防災計画で公助の限界と

自助努力がやたら強調されていることに懸念を覚える」（八幡屋の高齢男性）

「災害救助の名で最近やたらと自衛隊が動いていることに危惧を覚える」（同）

「都構想で消防・下水・道路などの管轄が市から府へ移るのは防災上も不安だ」（池島の女性）  
「町会に入っていない単身高齢者や障害者などが要援護者として行政や地域にだけ把握されているのが心配だ」（田中の若い女性）

「池島・八幡屋の三十間堀川<sup>やちしまやふたゐのやちまがわ</sup>付近の人は海面より九〇センチも低い所で生活しているという現状を見る活動も今後必要だ」（市岡元町の男性）  
「市の防災計画では自助・共助が強調されているが、何をどうするのか分からない。具体的なPRを求めたい」（築港の高齢男性）

「港湾局の運営方針の内容や、その課題の優先順位に問題があることが分かり、大変勉強になった」（築港の若い男性）

——行政や地域で進められる防災活動の改善・充実を願って市区民目線であることを検証するとして同協議会の運動が、今後さらに発展する一歩が期待されます。



# 消防・救急 学んだよ

賑わった「みなと消防フェスタ」



→「消防や救急の事を知ってもらおう」と開かれた「みなと消防フェスタ」11月22日  
(写真は消火器体験する女児。後ろは梯子車)

「消防や救急のことを楽しく学んでもらおう」と11月22日(土)、大阪市港消防署(弁天二丁目)で「みなと消防フェスタ」が開かれ、多くの区民でにぎわいました。昨年までは波除の交通科学博物館で開催されていましたが、今春に同館が閉館したため、同署での開催となったもの(来春以降も予定)。

## ◆ 臨場感たっぷりに消防など体験

朝十時から夕方四時まで、同署の建物を開放して様々なイベントが行なわれました。

このうち一階の車庫と訓練場では「はしご車高所体験」(安全帽と安全ベルトを付けて梯子車に乗り、三十メートルの高さまで上げてもらう)「ロープ渡過体験」(救助用ロープにまたがって前進する)「水消火器体験」(模擬消火器から水を噴射させて的に当てる)「ミニ消防車で防火衣試着体験」(防火服を着てミニ消防車に乗せてもらう)「ミニ消防車体験」(ミニ消防車で防火衣試着体験)「防火服を着てミニ消防車に乗せてもらう」など臨場感たっぷりの体験ができるコーナーがいくつも設けられ、待ちの行列を作る親子連れなどに署員が声をかけ、小さい子の体を支えたり、「気を付けて」と注意を促したりしながら案内役を務めていました。

→「ロープ渡過体験」①や「ミニ消防車で防火衣試着体験」②では臨場感たっぷりに救急や消防を体験できた(いずれも港消防署一階)



## ◆ ゲーム感覚で救急など体験

また三階の講堂では、「救急体験」(模型を使って心臓マッサージの仕方やAEDの使い方を練習する)「レスキューチャレンジ」(地震・火災などを想定したコースをできるだけ早く通る)「東日本大震災」(被災現場や救助場面の写真パネルから学ぶ)「住宅用火災警報器」(家の模型を見て警報器の設置場所を知る)「などゲーム感覚で救命や防火を学べる」コーナーがいくつも設けられ、やはり署員が模範実技を見せたり、「がんばれ」と声援を送ったりしながら案内役を務めていました。

「ゲーム感覚で防災や救命が学べた三階のコーナー。上は心臓マッサージをまねる女児、下は災害コースからゴールインした女児」



◆「有意義な催し」に二十代夫婦

このうち三階で子供一入（五歳女児と二歳女児）に「輪投げ」や「レスキューチャレンジ」をさせていた門野夫妻（共に三十代）＝弁天在住＝は「近くのマンションに住んでいます、その掲示板でこのイベントを知りました。いつも通りがかりに訓練の様子などを子供たちが興味深そうに観ていたので、この機会に勉強してこれたらと参加させました。それに私たちも大阪を舞台にしたNHKの防災ドラマで消防士の仕事を身近に感じ、普段はどんなことをされているのだろう」と関心を持っていましたので。

交通科学博物館での開催にも参加したことがありますが、色々なコーナーを通じて消防や救急についてたくさんのお話を学べる、とても有意義な催しですね」と話していました。

◆「消防士さんはすごい女児」

また一階で「はしご車高所体験」を終えた植松樹奈ちゃん（六）＝三先在住＝は「とても高くまで上がったのでびっくりしましたが、消防士のお兄さんについてもらったので、怖くはなかったです。人を助けるためにあんな高い所でお仕事される消防士さんたちはとても偉いと思いました。付き添いの祖母・恵津子さん（五十代）は「保育園のチラシでこのイベントを知りま



→映像でAEDの使い方を学ぶ母子①と、火災警報器の設置場所を示した手づくり模写②

「記者も参加した恐怖の？」「はしご車高所体験」。上は三十メートルまで上がった消火作業台、下はそこから見下ろした真下の会場の様子



した。普段できないことをたくさん体験させてやれて、良かったです」と話していました。

◆期待される「はしご車」の活躍

また記者も同署の好意で特別に「はしご車高所体験」をさせてもらいましたが、三十メートルの高さの怖さを実感すると共に、梯子の造りの堅牢さ、上昇・下降・回転の円滑さ、梯子に備え付けられたホースの太さ・丈夫さなどを目の当たりに感じて、このような優れた機器とその操作訓練を受けた消防士が、港区でも増える一方のマンションなどで高層建築物の火災の際に、存分に力を発揮することが期待されました。



# 無実の運動家の解放を！

獄中四十年 星野文昭さん支援集会



→「民衆のために闘い、無実の罪で獄中生活を送る星野文昭さんの解放を！」と開かれた集会  
 〓十一月十五日、南市岡の田中機械ホール

「民衆のために闘い、無実の罪で四十年もの獄中生活を送る星野文昭さんを取り戻そう！」と十一月十五日、南市岡の田中機械ホールで支援の集会が開かれ、支援者や関心ある人たちが参加しました。「大阪・星野文昭さんを取り戻す会」が主催。港区の労働者が協力。

これに先立つて十二、十三日には、星野さんが獄中で描いた絵の展示会が港区民セナターで開かれ、この日は獄中結婚した妻・暁子さんの講演などが行なわれました。

## ◆ 不正逮捕された文昭さん

星野文昭さんは一九四八年札幌市生まれ。六年高崎経済大学に入学。不正入学を告発した学生運動に参加し、処分撤回闘争を闘いました。さらに七一年十一月十四日には、佐藤政権による沖縄「返還」は本土復帰の願いを逆手にとつて米軍基地を固定化・強化するものだととして反対する「沖縄返還協定批准阻止闘争」にも参加しました。が、その際、物的証拠が一切ないままに、機動隊員死亡の「実行犯」とされ、七五年に逮捕。以来、死刑求刑（七九年東京地検）→懲役二十年判決（同年東京地裁）→無期懲役

←一九六七年当時の星野文昭さん（上）と、星野さんが獄中で描いた絵（部分）（下）



判決（八三年東京高裁）→上告棄却（八七年最高裁）→第一次再審請求（九六年）→特別抗告棄却決定（〇八年最高裁）→第二次再審請求（〇九年東京高裁）→異議申立（二二年東京高裁）などを経て、今年で獄中四十年。一貫して無実を訴え続けています。徳島刑務所在監。  
 裁判の中では、唯一の証拠とされた「供述調書」は「警察・検察に強制されたもの」との証言があり、また、星野さんを犯人と特定した「服の色」が間違い（「きつね色」ではなく「薄青」）であったことが分かり（〇八年、さらに、開示された写真から「鉄パイプで機動隊員を殴打」していない（つまりパイプには白い紙が巻かれて綺麗なままである）ことが明らかになった（一〇年））にもかかわらず、一度の再審請求はいず

れも棄却されています。

#### ◆ 獄中結婚した暁子さんと

一方、妻・暁子さんは一九五四年米沢市生まれ。文昭さんの裁判を傍聴し、「国家の苛酷な弾圧に対して正義を貫いて闘う人間性や生き方に心を寄せ、八六年に獄中結婚。以来、毎月の面会を重ねながら、各地の集会での訴えや、「証拠開示・再審開始を求める百万人署名」呼びかけ、闘争記『愛と革命』出版（二三年）、星野さんの絵画「自らの詩を添えたカレンダー」発刊や「絵と詩展」開催など、星野さんを取り戻す闘争の先頭に立ち続けています。

#### ◆ 「労働者の団結」と港の労働者

集会ではまず港区の労働者を代表して木下浩平さん（港合同・昌一金属支部書記長）が「基調報告」に立ち、「無実の星野さんに長期の獄中生活を強いる最大の狙いは労働者の団結を破壊することにある。ゆえに労働者の団結こそが星野さんを取り戻す力だ」「非正規化反対などの労働運動や安倍政権打倒などの社会変革運動と一体のものとして星野さん解放を勝ち取る」と訴えました。

← 獄中結婚のいきさつや夫の人柄などを語る星

野暁子さん①と、港区の労働者を代表して星野さん解放運動を呼びかける木下浩平さん②



#### ◆ 獄中の様子など妻が語る

次いで妻・暁子さんが講演に立ち、結婚のいきさつや自らの気持ち、また獄中での文昭さんの生活などについて、大要次のように語りました。

・ 獄中九年目に会ったが、初めての裁判傍聴では「全ての人間が人間らしく生きられる社会でなければ自分も人間らしく生きられない」といっ、人間の尊厳をかけた美しさを感じた。

・ 私の両親は交際にも反対だったが、夫が出した手紙に「すっかりした人だ」「自分で決めた以上は責任を持って」と承諾してくれた。

・ 獄中には暖房がなく、屈辱的な裸体検査もあり、些細なことを規律違反として一日中正座させられるなどの処罰もある。

・ そんな中で支援者が「受刑者を人間扱いしろ」「暖房を入れる」と徳島刑務所の包囲デモをしてくれたことに、夫は「一人のためにみんなが声を上げてくれた」と感激していた。

・ 夫は今年六十八歳になったが、一日三十分の運動しか許されない中で、筋トレなどで四十代の体力を維持している。

・ 夫は獄中で描く絵について「解放された人間と人間の関係や、みんなと共に生きる喜びを描いている」と言っている。

・ 獄の内と外では、体で愛しろというだけでなくのほもちろん、自由に話しろというやえ、闘いなしには難しい。

・ そんな中、「奪われた愛を奪い返そう」「心だけでなく体で愛しろ」ともあきらめないようにしよう」と決意している。

・ 夫は長期の闘争を通じて「弾圧は、それに屈服する時にだけ力を持つが、不屈に闘つ時には無力だ」との確信を抱くに至り、労働者の立ち上がりへの絶対的な信頼を持っている。

・ 日本では欧米と違って検察が全ての証拠を握っているが、「証拠開示・再審開始」の請求



運動は、これを打ち破る闘いでもある。

「取り戻す会」が二十七日所で結成されたが、来年は全国へ広げたい。百万人署名を職場・地域・学園へ広げましよう。

#### ◆「共に闘う」参加者

「このあと「フリートーク」と題して会場から感想・意見・質問を述べる場があり、その中では次のような発言がありました。

「星野さんたちの運動は、人間が人間らしく生きられるという原点を取り戻す(当たり前の運動だ)と思った。韓国では若者が運動の先頭に立ち、日本でも京大などで学生が頑張っているが、そうした状況と星野さんの闘いを併せてみると、いよいよ世界の民衆が反撃の段階に入っていると感じる」(司会の青年労働者)

「私も文昭さんと同じ闘争で捕まり、八カ月間拘留された。その後、競争社会に反発して労働運動を闘ってきたが、星野さんの不屈の闘争に、手紙を出すにも敷居が高かった。が、皆さんの話を聴いて人柄を感じ、敷居が低くなった。手紙を出した」(港合同OB男性)

『権力は、不屈に闘う時には無力だ』という

言葉を、本心にそうだと思った。卒業式で君が代を拒否して『クビだ』と恫喝されたが、『これは皆の問題だ』と二人でも闘い続け、跳ね返した。こうした闘いが安倍や橋下を追いつめていっている」(教育分野の女性労働者)

「息子が中学生の時に不当に拘留されて腹立たしい思いをした。星野さんの逮捕も不当だが、マスコミはほとんど報道しない。港新聞など地域新聞は頑張っている」(女性保育士)

#### ◆七十歳までに取り戻そう！

最後に、主催者代表が「まとめ・方針提起」に立ち、「今日は官民の労働者や一般区民が参加されたが、特に港合同の姿勢は力強く感じた」「徳島刑務所は民営化されて、金を使わず、人も入れず、待遇は劣悪。民間が国家権力と一体で弾圧を加えている構図だ」「検察が証拠をいつまでも出さないのは許せない。倉庫にあるものをふんだくるような闘いが必要」「フーキングブアを許さない闘いなど職場の闘争と結び付けて署名を広げ、星野さんを七十歳までに取り戻そう！」という訴えがあった。

#### ◆「見せしめの弾圧に怒り」参加者

終了後、参加した区内の六十代男性は「かつて日本共産党の宮本顕治氏は獄中十二年、徳田球一氏は十八年。それに勝る四十年を闘い抜く人がおられることにまず驚きました。宮本氏には百谷子さん、徳田氏にはタツさんという女性が獄外から励ましを送られ、結果、二人とも解放されたと聞いていますが、星野さんにも暁子さんという理解者が愛を送っておられることに感動しました。国家権力は国民生活を支える一面もありますが、結局は米国や日本の大資本の都合で動かされるもの。それにたてついた者として見せしめの弾圧されたのが星野さんであり、そのことに強い怒りを覚えます。私も出来る形で支援したいです」と話していました。

#### 星野さんを取り戻そう！全国再審連絡会議

T105-0004 東京都港区新橋 二・一八・一  
六石田ビル四階 ☎03-3591-1124  
FAX03-3591-1126 「eメール」  
aaguu2cd09@dreammoon.ne.jp  
「URL」http://fhooshi-no-connection.jp/

# みなとサロ

## 選挙とふりかけとサムライと

池島・勝部 泰臣 八十一歳

「暮らし」「アベノミクス」など目先の経済問題よりも「原発再稼働」「集団的自衛権」「特定秘密保護法」など国の将来にまで波及する深刻な問題の是非が今度の選挙の争点になると思っていたが、ほんこの党が「景気」「経済」主体であった。

昭八生まれ、食い盛りの小六で終戦を迎え、旧制中最後の世代となった私には「何を贅言（ぜいごん）しているの」と思わず呟（つぶや）いたテレビ番組が、つい先日あった十一月十八日大阪の某民放。

「冷たくておいしくない」と中学校給食に食べ残しが多く問題で、市長と教育関係者との問答。「僕はおいしかったですヨ」と市長（見た目にもおいしそうな井出だった）。「家からふりかけを持っていくのを認めれば食べなくてはならないと教諭（きょうゆ）」。塩分が過多になるから勧められ

ない」と市教委。結局、結論は出なかった。

ネタも尽きたか、こんなはばかりいことを取り上げる民放も民放、みんな平和ボケ、食いボケだ。「幼児が栄養失調で死んでいく民族もあるというのに、同じ地球に生存しながら…」と心ある人は嘆くだろう。食い盛りの生徒が貪（むさ）り食っている絵なら、「おおよつたるな、頑張れよ」と期待も膨らむが、食べ残しの果てに「ふりかけ論争」とは、何とも情けない。

あくまでも、私たち食糧難を悲しいほげに経験した世代からの感想だが、このふりかけ問題一つとっても、日本人が誇りとしたサムライ精神（軍国主義では断じてない）が、いつの間にか欠如してしまっているのが分かる。

かつて中国の故周恩来首相が「そのうち日本にも、先の先まで見通せる良い政治家が出るでしょう」と言ったそつだが、とてもとても。官も民も、物の豊かさこそが社会や人生の最終目的であるような風潮。このままではこの国の将来は真つ暗闇と嘆かざるを得ない。

右・左を問わず「苦勞人」「サムライ」この二つに絞って投票するつもりだ。

## 素晴しいルポ！「港区民まつり」

市国分町・七十年代 元公務員

「さわやか秋空に歓声！ 第四十回港区民まつりに二万二千人」十一月三十一夏の詳細なルポに感心しました。メーンの防災競技から周辺イベントまで、いきいきと、かつポイントを抑えて取材されたことが窺えます。中でも圧巻は、参加者の声を実に丁寧（ていねい）に拾っておられること。それも、「防災」というテーマを決めて開催されたのは良かった」などこのイベントを歓迎・賛美するものはかりでなく「防災競技に自衛隊や消防も加えてプロの技を見せるべきだった」「自衛隊参加に危惧（きふ）を覚える」など問題点の指摘や今後への提言も含まれていたように、三「三」に似合わない重々感を感じました。他の記事も同様に読みごたえがあり、全体として貴紙の「発行目的」にある「よりよい港区」への貢献する「を文字通り体現する内容」となっていることが、改めて感じられました。些少（せうしやう）ですが、今後への激励を込めてカンパを送金します。



## 区役所での論議、今後も報道を

池島・五十年代男性

いつもネットで読んでいます。十一月までは「区民主体のまちづくり」へ 区政会議で中間評価、意見交わす」(八頁)と「弱者目線の改善求める 社会保障で区民が区役所に」(十八頁)に目が留まりました。どちらでも区役所で開かれた会合で、港新聞を通じて初めて知ることができました。特に区政会議での論議は区政主般に亘り、防災から認知症対策、子供虐待、差別落書きに至るまで、私たち区民にとってはどれも大事な内容ばかりでした。港区で今何が問題になっているのか、総花的とはいえず、その概略が手に取るようにつかめます。」区役所からの報告が大半を占める「論議が質疑応答に留まっている」などの問題点もあるようですが、それを考えても、一つ一つ折に触れてその論議内容を知ることが、とても意義あること。本来なら区の広報で知らせるべき内容ですが、それが紙面の制約もあって叶わない分、貴紙がその代役を果たされているのだと受け止めています。ネタがネタだけに、硬い紙面になりますが、これ

からも継続的に報道をお願いします。

## 秋深し、港区景

田中・六十年代男性

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」(鴨長明『方丈記』)

一四年の秋も過ぎようといつ十一月下旬。自宅近くで思わずカメラを向けた光景があります。一つは雨上がり八幡屋公園の解体现場＝回下＝です。

このうち八幡屋公園は、普段は親子連れなどで終日歓声が溢れますが、この日は朝からの雨で訪れる人影もなく、ようやく上がった厚雲が目に飛



く鮮やかで、その一枚一枚が秋の終わりを告げているかのようでした。

一方のみなと温泉は、貴紙でも報道されたように六月三十日をもって六十一年度の営業に終止符が打たれましたが、一つとして建物自体が消えゆく過程を目の当たりにすると、やはりその終わりが一層身にしみて感じられます。青空の下にむき出したタイル壁からは、入浴客の喋り合つ声や、シャワーの音、コーンコーンと洗面器の触れ合う音などが響いてくるようでした。

住み慣れた港区にもこうして季節は巡り、そのつど見慣れた景色も少しずつ変わってゆく。とりたてて寂しいとか悲しいとかいつの世の移ろい、人の移ろいに何ともいえない感慨が込み上げた晩秋の情景でした。

## 障害年金もれ解消へ積極周知を

田中・西村 均

「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にズレがあるため、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数にのぼることが問題となっ

ていますが、そんな人たちに向けて書紙が「障害年金せいの心当たりある人は相談を」(あれこれガイドと呼びかけられています。私も以前(〇八年)「障害者手帳の等級と障害年金の等級は全く別だ」という旨の意見を書紙に載せて頂きました。その後、障害年金の受給もれが何度か報道されたことから、言いつ放しでは効果が無いと思い、港区役所保健福祉課に資料(年金と手帳の等級基準の比較など)を渡し、周知のリーフレットを置いてもらうよう働きかけてきました。先日(十月)はこんなやりとりをしました。

「昨年、資料をもらってから内部で回した。窓口対応に注意し、年金にあたりそうな人には伝えている(同課)→係の内輪の人たちは分かっている(だろ)が、また、ここに来る当事者にはそれでいいだろうが、今のままでは他の人にとって、分かるのが難しい。ずっと以前に手帳だけを取って、年金はあぶれたままになっている人に知らせる場合などには、何か手の平にのるものがある方がいい。皆が分かるように、簡単でいいから紙切れ一枚できないか(私)→分かった。年金の係と調整してみる(同課)→文書

回答をと言つといていただろうから、三ヶ月く

らい経つてからうかがう(私)＝文責・筆者。

窓口の職員は誠実に対応してくれました。い

### シベリア送りからの脱出劇に感銘

#### 八幡屋・四十年代女性

杉原麻子さんの「平和のため戦争体験語り継ぐ」を毎週読み続けながら、戦争が終わって本なら平和に過ごせたはずなのに、そのあとから次々と悲惨な目に遭われたことが、本当に不思議で、また気の毒でなりません。十一月号



「辻悦子さん(市岡元町)からの絵手紙

(五十頁)では難民収容所の地獄絵のような光

景に続いて、「主人のシベリア送りからの脱出劇が語られていました。走り続ける列車から飛

び降りるとは、本当に「男一匹命をかけた勝負」

といった勇気と決断が要つたはずですが、何より妻である麻子さんに会いたい一心だったと察せられ、助かられて本当に良かったと、我がこ

このように嬉しく思いました。このあとも「苦労は続くと思いますが、この事件はお二人の人生にとって、大きな大きな転機であつたように

思いました。末筆ながら、戦争を知らない世代のために辛い過去を語られる杉原さんの姿勢に、改めて心からの感謝を捧げるものです。

### 「海の子まつり」に温かを感じた

#### 北区・八十年代 自由業

「交流秋まつり」「健康まつり」「さんま祭り」「海の子まつり」。これでもかと続く「まつり」のオンパレードに港区の活気を感じました。特に児童養護施設の「海の子まつり」は、施設と地域の関係、子供と里親の関係がよく分かり、ほのぼのと温かいものが伝わってきました。

# 障害者の願い実現へ

## 「あゆみ福祉まつり」賑わう



→障害者福祉充実への願いを込めて開かれ、多くの区民で賑わった「あゆみ福祉まつり」  
十一月三日、築港三丁目のあゆみ作業所で

「住み慣れたこの街で安心して暮らしたい」「自立や社会参加を果たしたい」という障害者の願いを実現するために毎年続けられている「あゆみ福祉バザー」が今年は「あゆみ福祉まつり」と名を変えて、装いも新たに十一月三日（月祝）、築港三丁目の同作業所で開催され、多くの区民で賑わいました。

主催はNPO法人大阪港あゆみ福祉会が運営する「生活介護・あゆみ作業所」。二十人定員の主に知的障害者が通所する指定障害福祉サービス事業所です。

### ◆バザーや喫茶、舞台発表も

晩秋の冷えた空気の中、メーソンのバザーでは、同所の庭や塀の外に、年間を通じて区民から寄せられた衣料・食器・雑貨・本・玩具や同作業所の自主製品などが並べられ、朝十時から午後三時の間に約十五万円の売り上げがありました。

また「喫茶コーナー」では、コーヒー・紅茶・ケーキ、それに初登場のぜんざいなどの注文受け付けや調理・片付け・洗い物などに、利用者や職員が大忙しでした。

さらに今回初めての試みとして企画された

「大好評だった舞台発表から。上は『ブラック★ビート』による『漫才』、下は『きらきら星』などを演奏した『ハンドベル』」



「舞台発表」では、駐車スペースを利用して、漫才・ハンドベル・歌・ダンス・落語・形態模写などが次々と利用者によって演じられ、来場者から大きな拍手を浴びていました。

### ◆「元気づけられた」と三十代男性

来場者のうち、「妹のために」と大型の動物ぬいぐるみの数点を特別価格五百円でまとめ買いした三十代男性は、「毎回来ていますが、特に今年は舞台発表が面白く、利用者の方たちの明るいパフォーマンスにこちらも元気づけられました。障害者福祉には行政も力を入れていますが、充分ではなく、むしろ障害者の方たちの暮らしは



この不況の中で厳しくなっています。一市民としてこれからもこんな形で支援していけたらと思っています」と話していました。

### ◆「日曜作業所」からスタート

あゆみ作業所は一九八一年、難波看護学校生の父母が中心になり、「日曜作業所」としてスタート。「住み慣れた地域で働き、暮らし、社会参加したい」「語り合える仲間がほしい」という障害者とその家族の切実な願いに応えて活動を続けてきました。

一九九一年には弁天へ、二〇〇四年には築港の現在地へ移転。〇六年十月にはNPO法人の



→大好評だった舞台発表から。上は『花は咲く』などを披露した「歌」、下は『恋するフォーチュンクッキー』などを披露した「ダンス」

「大好評だった舞台発表から。上は自称・長瀬剛さんによる『ギター演奏』、下は今日亭うどんさんによる『落語』」



認証を受け、〇七年七月には新施設の完成と共に指定障害福祉サービス事業所へ移行し、新たな歩みを始めています。現在、十五歳以上の重度知的障害者、重複障害者が通っています。

### ◆求められる区民の支援

同作業所では利用希望者に「気軽に見学を」と呼びかけると共に、事業の一層の充実のために区民の支援を募っています。その方法の一つが「あゆみ作業所を応援する会」への入会。入会方法・年会費など詳細は同作業所(築港二一〇・一八、天保山公園南向かい、TEL・FAX六五七二一〇七二四)へ。

## 啓蒙的・実益的な情報

# あれこれガイド

## ●ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凪一六三、六五七二・七五二一)。

## ●ムチ打ち(首・腰)無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。土月二十八日(日)十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二七・一六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。『ごついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします』「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。Eメール info@jikkou110-nommu

ra.com、TEL 六五七六・六〇七八、FAX 六五七六・六〇七九。

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西

省大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている「写真

下の」はイメージ。次のような協力方法がある。

①会員になる「年会費二万」千田②会報を購読する「年間」千田③カンパする「税制上の優遇措置あり」④絵はがき『黄土高原の花』を購入する「八枚組」三百田⑤「ビデオ『よみがえる森』」を購入する「三十分五千田」⑥換金できる物を送る「古切手・書画損じはがき・外国「コイン・商品券など」⑦ボランティアになる「会報発送など」⑧黄土高原「フーキングツアー」に参加する「黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。今回は四月十一～十七日。訪問地は中国山西省大同市。一般十八万七千円、学生十五万七千円。定員三十名程度、最少催行人員十名。詳細は後口⑨DVD『黄色い大地に広がる緑々草の根環境協力の二十年』を観る「約三十分(無料)」

▽いずれも詳細・申込などはGENの事務所市岡一・四一四・五階、六五七六・六二八一、FAX 六五七六・六一八、Eメール gentree@s4.dion.ne.jp、http://homepages3.nifty.com/gentree/へ。



●日本クリンクラウン協会 入院生活を送る

子どもたちを定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、笑顔<sup>ハハハ</sup>を育む臨床道化師<sup>ひょうしんどうし</sup>「クリンクラウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。二〇〇五年から港区を拠点に全国で活動。二〇二三年度は三四病院を二六〇回訪問、約八千人の子供と関わった「写真(右の下)は活動イメージ」▽支援の方法「寄付する」「会員になる」

「マンスリー(ひと月単位のサポーターになる)」関連イベントに参加する「他▽いずれも詳細や申込は同協会築港二・七・五港振興ビル305A TEL・FAX 六五七五・五五九一 Eメール info@clinicinicians.jp ホームページ http://www.clinicians.jp/へ。

●書と初め・書道展 「書を通じて地域のふれあいを」と毎年始に開催される恒例行事「写真

は前回までの模様。一月日(金)十・十四時に天満宮(三先一・五・四〇、港南中学校北隣)の社殿で。墨・筆・半紙は用意されているので持参しなくてもよい。参加費無料。神前奉納も可。主催は同大満宮奉賛会(島尾健次会長。問い合わせは六五七一・〇五七七天満宮へ。



# みなとレポート

●「港区民文化のつどい」熱気 「文化の日」に因<sup>ちな</sup>り今年も十一月一二三日、港区民センターで

「港区民文化のつどい」が開かれた。実行委員会と港区役所が主催。三十三回目。三日間通して行なわれた「作品展」では港区地域女性団体協議会や幼稚園児・小学校児童などによる絵画・書道・写真・手工芸・生け花などの力作が展示され、区民の目を楽しませた。初日の「体験」コーナーでは書道・二胡<sup>にこ</sup>・民踊などの手解きを各講師から受ける姿が見られた。二日目の「舞台催し」



→健康教室歌体操による『まりと殿様』①と人権啓発コーナーの展示を観る女性たち②

では各校下の生涯学習ルームや女性会、個人やグループによる歌・演奏・民謡・朗読などが次々と登場。最後は抽選会の盛り上がりで幕を閉じた。「手話」「人権啓発」「似顔絵」などのコーナーや「お茶席」も賑わっていた。このうち三日目、来場者や出演者でこつた返すロビーで出番を待っていた六十年代女性は「こうして年に一度、発表の場があるのは励みになります」。生け花を鑑賞していた七十年代女性は「これは流派に囚わ<sup>とら</sup>れない自由な作風ですね。この催しは孫の絵を観に来たのをきっかけに毎年来るようになりまして、色んな方の作品や舞台が見られて楽しみです」と話していた。全体を通じて港区最大の文化行事の伝統と熱気が感じられた。

●「天保山まつり」にぎわった 「築港地域の歴史

や特性を再発見し、魅力を発信しよう」と十一日二日、「天保山まつり」が催され、晩秋の冷気の中、築港一帯で朝から夕方まで多彩な催しが続り広げられた。商店街・NPO・企業・港区役所などから成る「築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会」が主催。七回目。ハーバービレッジでは港区名物「みなとクモン」販売や安床ブラ

←築港温泉「歌声喫茶」で歌う青木美香子さん①と築港町猫倶楽部の「ホットドッグ販売」②



ザースインフィンスケートショー」や水上消防署車両展示などが、港商店街付近では築港温泉「歌声喫茶」や築港高野山「ちゃんこ鍋ふるま<sup>まちわくく</sup>い」や築港町猫倶楽部「バザー」や築港中学校「吹奏楽演奏」などが、赤レンガ倉庫広場では「ラシックカー」展示などが、築港「丁目では」雑貨ワークショップなどが、それぞれ開かれ、親子連れなどが足を止めていた。江戸時代の貨物船「菱垣廻船」(三分の一模型)パレードも人気を集めていた。初めて来たという五十年代男性は「盛の沢山でびつくりしました。不況の中でこうした催しが日常的な街の活性化に繋<sup>つな</sup>がることな<sup>う</sup>な<sup>な</sup>おいしいですね」と話していた。



# 集え！ボランティア

## 「ひまわり」に交流の場オープン



「ボランティアたちが集って賑やかにオープンした『港区ボランティア・市民活動センター』  
 〓十一月七日、弁天二丁目の「ひまわり」で

「色々な分野のボランティアさんが気軽に集える場」と十一月八日、港区社会福祉協議会ひまわり(弁天一・二五・三)の中に「港区ボランティア・市民活動センター」がオープン。四日からのイベントでは「絵本『三が』など様々な催しでその存在をアピールしました。

このうち七日(金午後)に開かれた「ボランティアカフェ」には、各種ボランティア活動に携わる区民数十人が入れ替わり立ち替わり訪れ、手づくり珈琲やパンを食しながら喋ったり、ひまわり職員のギター伴奏で『故郷』『村祭』『いつでも夢を』などを合唱したり、思い思いに賑やかな時間を過ごしていました。

### ◆「気軽に集まれ嬉しい」女性

来場者の一人で、楽しそうに歌いながら手拍子を送っていた行光千津子さん(七八)〓市岡元町〓は「ボランティアグループひまわり」の一員として十年ほど食事サービスなどに携わり、地元での公園掃除も二十年以上続けてきました。「食事サービスでは、食事やコーヒーを囲んで和気藹藹と過ごされる方たちのリラックスした表情を見るだけでこちらも楽しくなり、やつ

てきてよかったと心から思います。色々なボランティア活動をされる方がうつして気軽に集まれる場ができて嬉しいですね」と話していました。

### ◆「交流の場は大歓迎」と男性

また同じく「ボランティアグループひまわり」で副会長を務める吉岡英雄さん(弁天一)は「私たちは月一回、港区老人福祉センターで食事サービスをしています。市の補助がなくなった四月からはやりくりが苦しくなりましたが、高齢者の大切な親睦の場を守ろうと、食事や珈琲を手づくりするなど経費を抑えながら続けています。こうしたボランティアが交流できる場のオープンは大歓迎です」と話していました。

### ◆「誰でも利用できる」

なお、このセンターは誰でも利用可。月々土曜九時半〜十七時開館。席数十二。パソコン・プリンター・冷蔵庫・ポット・ロッカー・会議室などの利用可(一部有料)。また「カフェ」本格オープンは二月十一日で、奇数月第三水曜〜十五時に開かれ、百円で飲み物とパンが提供されます。問い合わせは〓六五七五・二二二二(港区社会福祉協議会・担当:荻野和代さん)まで。

# 健康的なおもちや贈る

ハピネスが子ども子育てプラザへ



→糸道子代表（右端）らハピネスグループから

玩具を贈られ喜ぶ吉田マネジャー（中央）

十一月三十日、港区子ども子育てプラザで

子供たちに健康的なおもちやを。「ふれあい喫茶」などの活動続ける港区のボランティアグループ「ハピネスグループ」（糸道子代表）が、港区子ども子育てプラザ（磯路）におもちやをプレゼントし、その贈呈式が十一月三十日（日）午後、月例の「ふれあい喫茶ハッピー」の中で行なわれました。

## ◆ プルトップ回収などで購入

おもちやは、同グループが続けてきたアルミ缶・プルトップ回収で集まったお金で購入した知育玩具「レゴブロック」。外国製で、幼児から小中高生や大人まで、年齢や発達段階に応じて組み立てレベルを上げていける本格派です。

受け取った同プラザの吉田政嗣マネジャーは「毎年毎年プルトップを集めたお金ですばらしい贈り物を頂き、本当に助かっています」と感謝を表明。糸代表は「一人ひとりの小さな力の積み重ねがこんな形で現われ、嬉しく思っています」と贈呈の喜びを語りました。

## ◆ 「ふれあい喫茶」を中心に

同グループは二〇〇四年四月、「幼児からお年寄りまでを対象にしたボランティアグループ」

「ハピネスグループ」による毎月の「ふれあい喫茶」①では和太鼓②など色々な出し物が



として発足。毎月最終日曜日の「ふれあい喫茶ハッピー」を中心に活動を重ね、様々な趣味のサークルも結成。そこで作った折り紙、おじゃみ、ストラップ、袋などをクリスマスや母の日などに無料で区民にプレゼント。現在の会員は八十代から二十代の約五十人で、女性が大半。同プラザには一〇年に木製玩具を、一一年にキッチンセットを、二二年にブロックを、一三年には積木セットを寄贈。こうした活動に対し、一一年には港区社会福祉協議会から感謝状が、二二年には市長から表彰状が贈られています。同グループについての問い合わせは ☎ 六五七三・〇六二五 糸代表まで。



# 心身の状態チェック

健康フェスタ 今年も盛況



→ 心身の状態を測れる工夫がいっぱい見られた  
「港区健康フェスタ」11月15日、港区民  
センター(写真は賑わう港区薬剤師会ブース)

「のびのび健康寿命!」をテーマに毎秋恒例の「港区健康フェスタ」が十一月十五日、港区民センターで開催され、多くの来場者で賑わいました。二十数年の歴史の上に今回から地域・企業主体の運営に変わり、主催は港区医師会・港区歯科医師会・港区薬剤師会・港区役所・港区保健福祉センターなどから成る「港区健康づくり推進会議・健康フェスタ2014実行委員会」。

例年、健康生活に役立つ楽しい催しが人気を呼んでいますが、今年も開場前から場外に長蛇の列。健康への区民の関心の高さを示しました。

## ◆ 各コーナーに人だかり

午後一時半の開会と同時に「野菜を二日三五日以上食べようゲーム」「体脂肪測定」「親子クッキング」「子どもの食育」「学校給食の紹介」「精神保健」「ウォーキング」「お腹の健康」「子どもの薬局体験」「肺年齢測定」「禁煙相談」「健康相談」「がん検診」「バター作り体験」「食中毒予防」「血管年齢と足趾力測定」「フッ素塗布」「バランス年齢測定」「結核健診(レントゲン撮影)」などのコーナーに人だかりができ、午後四時ごろまで賑わっていました。

「港区医師会などによる「みなと卒煙塾」でアトバイスを受ける参加者」と、桜菜会の「野菜を食べようゲーム」に挑戦する参加者



また舞台上で行なわれるキッズダンスやラジオ体操講座、スタジオで開かれる認知症講演やヨガ講座、AEDの使い方などにも注目が集まり、一緒に体を動かす人の姿が目立ちました。

## ◆ 「二日二万二千歩あるく」と老夫婦

このつち二階の廊下で休憩していた中原夫妻(九十歳と八十九歳)11月15日「毎年参加し、血管年齢などを調べてもらっています、一年ごとに健康状態をチェックできるのが嬉しいですね。日立造船で倉庫の仕事をしてきましたが、平成四年に退職した後は、健康のため、食生活に気を付けるのはもちろん、毎日二万二



千歩以上歩くことを心がけ、グラウンドゴルフも続けてきました」と笑顔で話していました。

#### ◆「無料チェック楽しみ」四十歳男性

また血管年齢を調べてもらった浜口雅弘さん(四〇)＝井天在住＝は「血管年齢は三十四歳と言われ、喜んでいます。一日、食にしたいと週に十キは歩くようにしている」などで減量できたのが良かったと思います。肺年齢は四十歳と歳相応でした。知人の女性と参加しましたが、毎年無料で身体をチェックできる、素晴らしいイベントですね。来年どんな数字が出るのか、今から楽しみです」と話していました。

#### ◆「歯のアドバイスを受けた」母子

また港区歯科医師会の「コーナーから未来ちゃん(四)を連れて出てきた奥本亜由美さん＝井天在住＝は「娘はフッ素塗布をしてもらい、これから永久歯が生えるので、よく噛んで顎を強くする食事をするようアドバイスされました。私は歯の磨き方が強すぎると言われました。広報みなちを見て初めて参加しましたが、無料で色々なチェックができ、とても役に立つ催しだと思いました」と話していました。

### 演劇

## この世の不条理を喜劇で

石炭倉庫 仏翻訳劇『授業』に反響



→「この世に確かなことはない」という不条理が喜劇的に表現されたフランス翻訳劇『授業』の舞台から＝十一月初旬、波除の石炭倉庫で

「確かなことは何もない」というこの世の不条理や空虚さを喜劇的に表現したフランス翻訳劇『授業』が十月初旬、波除のフリースペース「石炭倉庫」で上演され、反響を呼びました。

一九五〇年代にサミュエル・ベケットやアルチュール・アダムと共にフランス不条理演劇と呼ばれるジャンルを作り、現在でもパリで作品が上演されている劇作家フジエール・イコネス(コ)の原作を安堂信也さんと木村光一さんが翻訳。若い頃に新文学座で活躍した井垣泰平さんが演出。井垣さん主宰「演劇office」いがき(住之江区)の公演として上演されました。出演は井垣さん、西原亜菜さん(劇団ひまわり)、あながいおまるさん(あながいおまるの一座)。

#### ◆喜劇が最後は殺人へ

——ある女子学生が老教授宅にやって来るところから話は始まる。「全ての博士号を取りたい」と意気込む彼女に教授も意欲を燃やす。算術から言語学へと授業は進むが、次第に講義は独りよがりな支離滅裂なものに。途中で女中マリイが入りしては「算術は死につながる」「言語学は悲劇につながる」など意味ありげに授業

「喜劇的な展開」が、最後は狂気の殺人へ



をやめさせようとするが、教授はつるまげに追い払う。そのうち女学生は「歯が痛い」「頭も肩も」と氣力を失い、それでもメスを取り続けるものの、辛抱も限界に達する。やがて教授は「ナイフ」の発音に執着し、実物を見せながら、疲れ果てる女学生に発音練習を強要するうち、とうとうそのナイフで彼女を刺してしまふ。そこへ女中がまた現われ、「これで三十九人目か…」とつぶやきながら、二人で死体を運び出す――。

#### ◆ 人間存在の空虚であらう出す

喜劇的な展開が次第に狂気の様相を帯び、最後は戦慄の殺人へ。序盤で教授が発した「確かなことなんて何もないんだ」といつこの世の不合理や空虚さ、あるいは「人間同士分かれ合え

ることはない」という冷めた人間観・社会観が、奇想天外な展開を通じて炙り出されました。

ハイテンポで大半が言葉の遊び的な内容の長台詞を我がものとし、表情やアクションも豊かに教授役を演じ切った井垣さん。希望に燃えながらもどこか間の抜けた雲田気で教授とかみ合わない女学生役を、明快な台詞発声、豊かな表情、若々しい動きで演じた西原さん。出番は少ないもののポイントとなる場面に現われてはその後の展開を観客に考えさせる女中役を、謎めいた語り口とおどろおどろした存在感で演じたあんがいおまるさん。簡素な大道員・小道員と無音楽無転換による一時間余の舞台空間をほぼ語りの面白さで魅せ切ったのは、この実力者三人の職人的なチームワークでした。

#### ◆ 殺伐社会での生き方考えさせる

全体を通じて、人々が願う平和で心豊かな社会とは逆の殺伐とした方向へ進む現代社会への深刻な不安が「グレイジー・コメディ」とでもいっていい形で表現され、「そんな世の中であなただはどう生きますか」と観る者に問いかけているように思われました。

### 演劇ガイド

● 舞踊と三味の競演『清新』 波除の石炭倉庫を拠点に演劇活動を続けるあんがいおまる一座

が清々しい新年を願って春夏秋冬を華やかに舞う。日舞は吉津たかしさん(元OSK)に師事、三味線と尺八はつわぶき会。一月十一日(日)十一時と十四時。前売 千円、当日 千三百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、☎五八八・〇六八四)へ。

● 井太町ORC200生涯学習センター子ども喜劇『さよなら井太町頭々お船の中でのいい湯だな』 大阪市出身の放送作家・砂川一成さんが「喜劇はチームワークとコミュニケーション

やで」と伝授した成果を子供らが披露。阪神淡路大震災の実話が題材。土月 十七日(土)十五時から講堂で。観劇無料。☎五七二・二四一〇。

### ライブ情報

● 八幡屋出身のロッド・フレイマー 桐田勝治さん

一月四日(日)十八時から神戸VARA(☎七八・三九一・六六五五)でガーゴイルのワンマンライブ「新春メタ絵巻」に出演予定。

# 弁天ク 底力の三連覇

## 市長杯バレー十七チーム熱闘



→十七チームが熱戦を繰り広げた市長杯バレー  
 十一月十六日、港スポーツセンター(写真は  
 決勝でスパイクを打ち込む弁天ク・奥澤⑬)

港区バレーボール連盟(数下俊文会長、主催  
 の「第十三回大阪市長杯・港区女子バレーボ  
 ル大会」が十一月十六日(日)、港スポーツセン  
 ターで開催されました。十七チームによる熱戦  
 の末、弁天クラブが優勝、CHKKOが準優  
 勝を飾りました。

朝九時からの開会式では主催者を代表して数  
 下会長が「寒さの中、体調維持と安全のため入  
 念に準備運動をし、四区(港・太正・此花・西)大会  
 出場めざして全力プレーを」、来賓を代表して  
 藤田あきら市議が「地域をまたいでバレーを楽  
 しむことは防災など地域の安全にもつながる」  
 とそれぞれ選手たちを激励。築中OBの小寺  
 静江主将が「私たち選手一同は、今年最後の太  
 会へ心一つに臨み、命をかけ、なおかつ楽しく  
 戦つことを誓います」とユーモアと力強さに  
 溢れた宣誓をして会場を沸かせました。

### ●懸命の攻防が感動呼んだ決勝

試合は夕方八時に及び、三コートに分かれた  
 予選での上位四チームが決勝トーナメントに進  
 出。準決勝ではCHKKOがMISAKIを  
 二対〇、弁天クラブが波除小PTAを二対二で

←大会を主催した港区バレーボール連盟の役員  
 団(上)と、宣誓する築中OB・小寺静江主将(下)



破つて決勝に進みました。

決勝では四試合目とあって疲れがピークに達  
 する中、共に声を掛け合い、気力を振り絞つて  
 の攻防が感動を呼びましたが、鍛え抜かれたレ  
 シープ力に加え、ベテラン藤川の正確で安定し  
 たトスや、金城、小田の両エースを中心に奥澤  
 中西、伊井、杉森、西川の七枚アタッカーとい  
 う攻撃層の厚さを誇る弁天クラブが、俊敏な守  
 りと鋭いサーブ、エース中山を中心とする五枚  
 アタッカー(他に花房、小倉、白井、屋並)に  
 よる硬軟自在のスパイクや高さのあるブロッ  
 クなどで攻守に安定したプレーを見せるCH  
 KKOに、一セットとも後半までかなりのリー



ドを許しながら、いずれも終盤に驚異的な追い上げを見せて逆転、一対〇（二十一対十九、二十一対十八）で勝利を収めました。

試合の中では、相手の隙を突くＣＨＩＫＫＯのエース中山の的確で鋭いスパイク、その中山の強打を最少に封じた弁天クの巧みなボール回し、さらに第二セット終盤で十五対十八の劣勢から連続ハポイントをもたらした弁天ク・和田の勢いのあるサーブが光りました（以上、試合模様は敬称略）。

弁天クはこの大会三連覇を果たして底力を見せつけ、通算では五度目の頂点。既に八月の連盟杯優勝で手中にしていた四区大会（来年八月への出場権を兼ねて実力で手にしました）二期連続。一方のＣＨＩＫＫＯは予選から準決勝まで全て一方的なストレート勝ちで通過。その勢いで初優勝なるかと思われましたが一步及ばず。しかし、この大会十三回中五度目の準優勝で、出色の安定感を改めて印象づけました。

### ● 相互審判など裏方でも活躍

決勝と同時に行なわれた二位決定戦では波除小ＰＴＡがＭＩＳＡＫＩを二対二で降し、三

← 決勝でスパイクを打ち込むＣＨＩＫＫＯ花房選手（上）と、敗退後も大会を支えた選手たち（下）



四位が確定。この他のチーム（築中ＯＢ、南市岡クラブ、ＳＥＥＤ、ＡＵＮＴＳ、港南、八幡屋クラブ、港中ＯＢ、港南ＯＢ、しるはこ、市岡小ＰＴＡ、港南中ＰＴＡ、波除女性会、リンＫＫ順不同）も日頃の練習の成果を発揮して健闘し、試合に敗れたあとも閉会まで、相互審判や応援、清掃などで大会進行を支えました。閉会式では数下会長から一、二位チームに賞状と記念品（バレーボール）が手渡されました。

なお、会場にはこいずみ鍼灸整骨院（弁天一丁目など）港区内外に十七店舗）のスタッフ三人が待機、捻挫、突き指などを訴える十数人にテーピングなどの応急処置を施し、選手たち

の安全を支えました。

### ● 「おははんパワー」で大逆転▽

大会終了後、優勝準優勝チームに感想を訊きました。

優勝の弁天クラブは弁大小ＰＴＡチームを母体に結成されて二十数年。数下俊文監督（港区バレーボール連盟会長）、高谷潔コーチ、西川サブコーチの手厚い指導のもと、弁天小学校で毎週一回（一時間と二時間）の練習を重ねてきました。年齢幅は三十代から六十代。

身内の不幸で欠場した高尾治美主将に代わってインタビューに応じた金城選手らは「高尾主将に加えてアタッカーの一角である桑田さんも脚を痛めて出場できず、その影響もあって準決勝も決勝も、最初はもう駄目かと思うくらい引き離されましたが、何とか大逆転できました。特に若い波除小Ｐさんとの準決勝が一番苦しかったですが、おははんパワー（笑）で乗り越えました。決勝で実力者のＣＨＩＫＫＯさんに勝てた直接の要因は、サーブなどで圧力をかけ、エースにできるだけボールを回させなかったこと。三連覇を目標に出場し、その通りにな

って本当に嬉しいですよ。四区大会では港区代表に恥しないよう、また今年「予選敗退」のリベンジもかけて頑張ります。四連覇に向けては、サーブ、サブカット、つなぎ、ブロック、ア



→三連覇に沸く弁天クラブ。前列右から二人目は数下俊文監督（港区バレーボール連盟会長）、同左端から西川サブコーチ、高谷コーチ

タック、レシーブなどの基本は全員がほぼ出来ており、また誰もがどのポジションでもこなせるので、今後は一つ一つのプレーの精度を高めること、そして自分の得意なポジションを固めることをめざします」と話し、喜びの中にも顔を引き締めていました。

### ● 厳しいマークの中で準優勝

一方、準優勝のCHIKKOは築港地区を中心とする地域チーム。藤本礼子監督のもと、週一回（各二時間）、築港小で基本プレーを中心に質の高い練習を積み重ねて成長を続け、最近の大会では、連盟杯で二〇一一年に優勝、市長杯で二年と二四年に準優勝、区民大会で二年と二四年に連覇するなど、絶えず上位争いを演じ、他チームの厳しいマークを受けています。

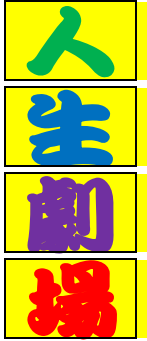
インタビューに応じた中山江麻主将は「予選から準決勝まで楽に勝ち進めたので、その勢いで優勝を意識したのですが、ちょっとしたミスがきっかけで落ち込み、持ち直せなかったのが決勝戦での敗因。初優勝を目標に出場したので、やはり残念です。今後の課題としては、こつとした気持ちの問題を克服することを一番に、

←準優勝に笑顔のCHIKKO。後列右端は祝福する港区バレーボール連盟副会長（右から田中喜美子、浜口伊知江、福井真由美さん）



基本プレーをもう一度見直し、ブロックのタイミングや高さを揃えることなどにも取り組んでいきたいと思っています」と話し、悔しさの中にも、早や次大会を見据えています。

みなと



港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづる『当地ドラマ』シリーズ第八弾は、田中在住の名もなき九十年代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしと」。

## 幸運橋の空 (三)

前巻まで 港区のデザイナーズに通う大東くみ子 久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。一久美子は一九二二年、六人兄弟姉妹の第一子として浪速区に生まれた。父・弥太郎は腕の良いベルト職人だったが女遊びや賭け事で母を困らせていた。久美子の生後間もなく、父は労働争議を首謀したかどで解雇され、西淀川区へ引っ越した。その退職金も底をつき、今度は夜逃げ。それでも何とか父の再就職で、その社宅に暮らすようになった一家だったが――。

### ● 母を助けた父の再就職

その社宅の近くに巡査一家が住む立派な屋敷があった。その焼き板の塀の下から赤い母の実がのぞいていた。六歳くらいだった久美子はそれを見て欲しくてたまらなくなった。それで、その塀の前を流れていた深さ五十センチくらいの浅いどぶ川をじゃぶじゃぶ渡り、母をちぎって着物の前掛けに入れた。ところが、その様子を巡査の奥さんが見ていて、久美子の父に言い付けた。父はお仕置きに久美子の手足を縛り、部屋に備え付けてあった一段ベッドの上の段へ放り上げた。父・弥太郎にはうつつい敵しい面もあったのだった。

### ● 社宅を出て長屋へ、やがて二軒建へ

ほどなく久美子たち一家は社宅を出、同じ西淀川区花川町にある六軒長屋の一軒へ引っ越し、さらにそこから同じ花川町の二軒建ての家へ移った。そこでは古屋コーナンという鶏を飼い、その鶏は毎日卵を産んだ。すぐ近所には牛舎があり、馬刀(馬車)で荷物を運ぶ業者がいたように久美子は覚えていた。

### ● 母の母の世話に明け暮れる

その頃から母・ハチは久美子を隣家に預け、

父の実家(富田林市喜志)に住んでいた病気の姑ルス(父・弥太郎の実母、久美子の祖母)の面倒をみるようになった。

この祖母は若い時に祖父・亀吉との結婚を祖父の親に反対され、祖父十九歳・祖母十七歳で駆け落ちした。祖父は長男だったが、駆け落ちしたため次男に実家の跡を取られ、仕方なく二人で大深という隣村に住んでいたそだ。祖父(亀吉)は役場に勤め、のちには小学校の小遣いとして働いた。

その祖母ルスは当時、子宮癌を患っていた。その頃、子宮癌は「肥立ち流し」と呼ばれ、内臓が血と一緒に溶ける怖い病気と言われていた。母は姑のもとに住み込み、その隠居部屋で、食事から下の世話に至るまで献身的に面倒をみた。姑は勝気できつちりした性格の人だったが、最後は気がふれたようになり、おまる(便器)の汚物を頭から被ったり、煮えくり返った湯を引っくり返したり、それは大変だったそだである。

### ● 父は祖母の病を治す

ところが、そんな母の苦労をよめ聞いて、父は



またもや女癖おんなくせの悪さを發揮はたらしていた。というのは、近所きんじよに飴細工屋あめさいぐや一家が住んでいたのだが、その主人がたくさんの子どもを残して死んでしまったのだ。父は同情して一家の援助に乗り出したまではよかったのだが、そのうちに、この十八歳はちじゅうぐらいの初はつという可愛い娘さんと懇ろねんろになり、「三さんのようにしてしまつたのである。

ある日、母が姑の世話の合間に久し振りに家に戻った時のことだった。近所の人がさつそく父の行状うごちざうを告げ口した。母は「またか」と腹立ちながらも、ひと目父に会い、晩までには姑の家に戻つて焦あせっていた。が、なかなか父は帰って来ない。夜遅くによつやく帰って来た父の胸ぐらをつかんで、母は口走つたぞうだ。「もう、明日から（姑の世話には）行けへん！」「分かつた。ちゃんと始末つけるから……」。父は平謝あやまりに謝り、そのあと、言葉通り飴細工屋一家との関係に切りを付けたよつだ。

父の援助が得られなくなったその飴細工屋の末し人は、結局、娘（初さん）を大分県の別府温泉べつふおんへ酌婦しやくふ（遊女）として売りに出すことになった。



共同風呂でさつぱり、髪を結むつてもらい、きれいな着物を着せられ、もつ一人のおツギといつ十九歳じゅうきゅうぐらいの娘さん（こちらはあまりきれいではなかった）と一緒に「紹介人」と名乗る男に連れて行かれたお初さんの姿を、今でも久美子は覚えてる。たしか、お初さんは百一十円、おツギさんは九十円で売られたと聞いた。別府へ送られたお初さんからはその後、「辛つらいから迎えに来てください」と父宛あてに何度か手紙が届いたぞうだ。

### ● 祖母の死と葬儀

久美子はその家鶏を飼っていた花川町の家から西成郡鷺洲町うしひつしゅう（現在の福島区）の鷺洲第五尋常小学校（現在の鷺洲小学校）に通つた。母は何とか三年間、姑の面倒をみ続け、その最期さいごを看取つた。久美子が一年生の夏だった。久美子は父に連れられて富田林の喜志へ行き、

葬儀に出た。久美子は祖母の写真を持つ役目だったが、お別れに来た人の列が、祖父の家から相当離れた大鉄だいてつ（今の近鉄）の喜志駅まで続いていて、祖母が生前、地域ではかなりの顔だったこと、交際範囲の相当広がったことが、子供心にも感じられた。

### ● 幸子の誕生と死、また引越

また同じ一年生の頃で、祖母が亡くなつてしばらくしてから、妹の幸子が産まれた。が、産まれてすぐ縁側えんがわから落ちて死んでしまった。学校から帰つてくると、すでに息がなかったのを久美子は覚えてる。このことを母は「かわいそうなことをした」と後々まで悔くやんでいた。こんな不幸な出来事があったからか、ほどなく久美子ら一家は同じ花川町の別の所にあった平屋建ひらやけんての一軒家へ引越した。川向かわむきに何かの工場があった。久美子はたしか二年生だった。その頃は父の羽振りはふりがよかったのか、家には大きな立派な水屋みずやがあり、母は家の中をきれいにそつじく、二時になったら子供たちを銭湯せんとうへ連れて行ってくれた。が、よいことばかりではなかった。

# やさしく力強く

## 区民音楽祭 九グループ競演



→九グループが歌声を響かせた「港区民音楽祭」。  
写真は全出演グループによる『ひまわりの風』  
の大合唱。十一月十六日、港区民センター

「コーラス発表を通して歌つ喜びを共有し、グループ間の交流を」と市民協働の手づくり合唱イベント「港区民音楽祭くひまわりコンサート」が十一月十六日（日）午後、港区民センターで開かれ、区内のコーラスグループが、やさしく、力強く、健やかな歌声を響かせました。港区民音楽祭実行委員会が主催。港区青少年指導員協議会・レディス卓球・手話サークルみなと・筋肉商店街・財大阪市コミュニティ協会港区支部協議会が協力。七回目。今年のテーマは「この街で 咲かそう 歌の花」。

### ♪ 童謡・唱歌からゴスペルまで

オープニングは全出演グループによる壮大な『ひまわりの風』の大合唱。このあと、各小学校生涯学習ルームなど九つのコーラス・演奏グループが、童謡・唱歌から映画主題歌・ゴスペルまで、日頃の練習の成果を披露しました。

中盤には来場者も含めた『涙くんさよなら』『野に咲く花のように』の合唱やゲスト出演グループによるオカリナ演奏・ピアノ演奏が挟まれ、最後は再び会場全体で手話を交えた『ふるさと』を大合唱し、感動と一体感の裡に幕を閉

「爽やかな歌声で『にじいろ』などを披露した市岡小生涯学習ルーム＆市岡小PTAコーラス「poco poco」④と、楽しい歌声で『いつでも夢を』などを披露した八幡屋小生涯学習ルーム「ナチュラル」⑤



じました。

### ♪ 「響けなる声出せる」と七十代女性

出演グループのうち、八幡屋小学校生涯学習ルーム「ナチュラル」指揮：岩崎広世さん伴奏：西田千草さんは「自然体で、にこやかに」「いつでも夢をもつて、あきらめずに」をモットーに活動を続け、週一回、八幡屋小学校で練習を重ねてきました。この日は「スチュームや振り付けも楽しげに『ロマンチストの豚』きん

いづの太陽がもえる朝に『見上げて』らん夜の星を『いつでも夢を』を披露。盛んな拍手を浴びていました。

発表後、メンバーの七十年代女性は「入会して五年目で、私が一番新しいメンバーですが、みなさん、とても朗らかなムードです。合唱は一人では声が出せなくても、みんなできたら出て出せるのが嬉しいですね。私みたいな素人(笑)を相手に先生も大変ですが、発声の基本から教えて頂けるので、安心してついていけ、歳をとっても続けられそうです。前は演歌ばかり歌っていましたが、クラシックやシャンソンやオペラなどにジャンルが広がり、世界が広がって楽しいです」と話していました。

### ♪ 出演グループと発表曲

他のグループ・発表曲は次の通り(敬称略)。

▽市岡小生涯学習ルーム&市岡小学校PTA「フラス」poco poco(伴奏:片峯弘子)＝『にじろ』『トゥモロー』『Letter Goo〜あいのまねび〜』

▽井天小生涯学習ルーム「弁天サマーズ」(指揮:磯島朋子、伴奏:高木久美)＝『リンゴ』

←元気な歌声で『リンゴの唄』などを披露した

弁天小生涯学習ルーム「弁天サマーズ」(上)と格調高く『いつも笑顔で』などを披露した港区コミュニティ合唱団「シーカナリー」(下)

区コミュニティ合唱団「シーカナリー」(下)



の唄『東京の花売娘』『星の流れに』『東京ブギウギ』『銀座カンカン娘』

▽港区「コミュニティ合唱団「シーカナリー」

(指揮:片峯弘子、伴奏:濱長良美)＝『きことしあわせ』『コーラスはハッピータイム』『いつも笑顔で』

▽北原夕美子・奈史子(ピアノ演奏)＝『ア

ナと雪の女王の』Letter Goo』『アイゴット Rhythmic』

▽ラブ・ラカント(指揮:片峯弘子、伴奏:濱長

良美)＝『スバゲッティのつた』『ハンバーク』『オムレツ』『コーラスがあざと』

▽田中小生涯学習ルーム「フイートピー」

(指揮:加藤八千代、伴奏:山本美恵)＝『明る

いほつへ』『ふるさと』『風ハージョン』

▽ Choir 552&Bay Side Choir『Total Praise』『Seasons Of Love』『Singer Song』

▽ワールド合唱団(指揮:高見清水、伴奏:佐々木康子)＝『少年時代』『宇宙戦艦ヤマト』

▽ゲスト「コム・シャネテ」(オカリナ演奏

＝『アメイジング・グレイス』『あの素晴しい愛をもつ一度』『ごまが風になつて』

### ♪ 区民の声をきかたけ

なお、この催しは「発表の場がほしい」「コーラスの楽しさを存分に味わいたい」という区民の声をきっかけに区内の合唱グループが実行委員会を結成して二〇〇八年にスタート。以後毎年、公的機関や区民団体の協力・援助も得て企画段階から準備作業を進め、チラシやポスターも自分たちでデザイン・作成しています。



## 平和のため

# 戦争体験

## 語り継ごう

すぎはら あなこ

杉原 麻子さん(九四) 南市岡在住 ⑤



前まで 一九〇年香川県に生まれた私は

中国での戦火拡大の中、看護学校に学び、赤十字病院では傷病兵の看護に追われた。二十歳で結婚し、満洲の首都新京へ。不自由な生活を送ったが、四五年四月に夫は戦地へ。八月

ソ連参戦で大混乱、お腹の子を抱えて北朝鮮へ疎開のあと再び新京へ。しかし我が家は略奪され他家に寄寓。ソ連支配下の市内には開拓地から難民が送り込まれ、食糧不足や疫病で地獄の光景。一方、戦地の夫は撫順で終戦を迎え、ソ連の捕虜となったが、シベリア送りの列車から決死の脱出を試み、成功した。

## 酷寒の病院で長女出産

### 夫と再会、三家族で共同生活へ

脱出に成功した夫は直ちに軍服を脱ぎ捨て、ネルのシャツ一枚になりました。そして、拾った籠を担ぐなどして農民姿に変装、線路伝いにコリヤン畑を歩いて新京に入り、一番近い知り合いの家に辿り着きました。事情を話し、虱の巣になっていた腹巻や褌などの下着を全部捨て、服をひと揃えもらいました。そして、あちこち尋ね歩いて、ようやく私の居所を探し当てたのでした。

### ◆ 再会に胸込み下げ

九月二十日。友人のKさんがひょっこり私の

所へやって来て、言いました。「奥さん、大事なお客様を連れてきましたよ」「え、誰?」。見ると、Kさんの後ろに一人の男の人が立っていました。日焼けした顔が笑っています。あまりに突然のことで、私は言葉が出ませんでした。嬉しいといふより、胸が込み上げて込み上げて、どうしようもありませんでした。

### ◆ 困難乗り越え「予定日」が

市内のあちこちで、ソ連兵が威嚇のため閤空へ撃ち放す銃の音がポンポンと不気味に響いていました。が、町は物騒な中にもようやく落ち着きを取り戻したようでした。そんな頃、私のお腹も多くの困難を乗り越え、無事出産予定日を迎えました。

十月二十四日夜、十時過ぎから陣痛が始まりました。零下何十度という酷寒の晩でした。近くに日本人経営の田島病院があつたので、夫と知り合いの男性二人に付き添われ、門を叩きました。が、なかなか応答がなく、厳重に閉ざされた玄関は開きそうにありません。

一時間くらい待たされ、事情を話すとようやく中に入れてくれました。しかし、夫も付き添

いの男たちも、みな帰されてしまいました。敗戦のため、日本人経営というだけで略奪や暴行の対象にされかねない時勢だったので、病院側も、日本人の姿をできるだけ見られないよう警戒していたのです。

### ◆夜明けに「オギャー」

分娩室に通されましたが、暖房もなく冷えていました。院内には人の話し声もなく、暗い部屋に一人っきりで心細く、ガタガタ震えていました。十時を過ぎてもお産は進行せず、時たまのぞきに来る看護婦さんも、「そんな痛みではまだまだ」と素つ気なく、すべ出て行ってしまうありさま。

夜明けが近づき、窓のカーテンがほんの明るくなってきた頃、よつやぐ「オギャーオギャー」と大きな産声。瞬間、私は体の中から全てが抜けてしまったようにべったりとなり、気を失ってしまいました。が、しばらくして「オギャーオギャー」の声で我に返りました。女の子どもでした。

### ◆新しい生命「純子」と

栄養が大切な時期に食いや食わずの生活で

←敗戦直後から大混乱が見られた満州各地



果たして正常な子供が産まれるだろうかそんな不安を打ち消すかのように、新しい生命が元気な姿を現わしてくれたのです。「神様、ありがとうございます」。大粒の涙が頬を伝い落ちました。

赤ん坊はべいべいと力強く乳房に吸い付きます。が、母乳は細々と吸い出されるだけで、満腹には程遠いようでした。それでもその幼い吸引力はこの上なく私を力づけました。これから先もどんなことがあるか分からないけれど、強く生きろという一瞬そんな勇気と希望を与えて

れたのです。娘は「純子」となづけました。

### ◆引越先ではネズミ退治から

親子三人になり、Aさん宅が狭くなったので、Kさん宅へ引越すことになりました。その家は三部屋あり、玄関の一畳間には既に川口という同郷の独身青年が居候していました。Kさん一家が八畳間、私たちが四畳半と決まり、共同生活が始まりました。

ここでは居間から炊事場で鼠がガタガタ騒ぐので、大切な食糧を食へられては大変と相談し、まず鼠退治をすることになりました。川口君の部屋の奥が廊下で、突き当たりが炊事場になっていたので、風呂やトイレのドアを閉め切り、一畳間の入口と出口をそれぞれ少し開けておき、出口の方で南京袋の口を開けて待ち構え、入口の方から床や壁をトントン叩くと、果たして、チューチューバタバタと姿を現わし、大慌てで走り回り、まなまな袋の中へ。「網打尽、袋の鼠とはこのようでした。以後、鼠に悩まされることはほとんどなくなりました。

が、この共同生活ではまた、これまでになく困難に戸惑いようになりました。(つづ)

# 入魂の手技が大集合

## 老人福祉センターで作品展



→ 魂を込めた力作の数々に「美しいね」「見事やわ」と溜息がもれた「港区老人福祉センター作品展示会」（写真は手芸や生け花のコーナー）

「きれいやね」「上手やわ」。港区老人福祉センター（汐風、宇津原正章館長）主催の「作品展示会」が十一月十一、十二日に同センターで催され、入魂の手技の数々に来場者の溜息がもれました。

展示されたのは墨絵、生け花、書道、手芸、折り紙、編み物、俳句、フラワーアレンジメントなど、この一年間に同センターの各文化教室・同好会で制作された「百品超」。どの作品にも作者の想いがこもり、持てる技が注がれ、二つとない個性に溢れていました。

会期中には同センター利用者や港区老人クラブ連合会（原田壽会長）の会員を中心に、大勢の区民が鑑賞に訪れましたが、そのうちの何人かに感想を訊いてみました。

### ◆「見事な生け花」と八十代女性

このうち「生花教室」の作品などを興味深そうに鑑賞したあと「ひまわりの囀茶」（百田で珈琲とケーキ）で二息ついていた平田悦子さん（八二）井天在佳「は「初めて鑑賞」にきました。どの作品も素晴らしいかったです。私は大東市の農村の神主の娘として生まれ、中学を出たあと

「バランスが素晴らしい」と注目を集めた安島三千代さんの生け花作品（素材は朝鮮槿）



藤田という有名な先生から未生流の生け花を四〇五年習って『奥傳』（習熟度に応じて与えられる資格の一つで、教授免許を得られる『師範代』の一つ手前）まで進んだことがあるので、自然と生け花に関心が向きました。中でも朝鮮槿だけを活けた安島三千代さんのシンブルな作品は、枝の反り具合や伸び具合が見事でした。たぶん未生流とされます。未生流は、作品の背丈を容器的の二・五倍にするとか、上下左右のバランスなどに約束ごとがあり、優しく棘のない作風が特徴です。私はほかに編み物も習っていたので、編み物作品も興味深く鑑賞させて頂きました」と話していました。

### ◆「観て良かった」と七十歳女性



また平田さんと一緒に鑑賞し、一緒に休憩していた田村カヲルさん(七〇)＝波除在住＝は「私も初めての鑑賞で、会社員時代に四〇五人のサークルで未生流の生け花を習って『初傳』まで進んだことがあるので、特に生け花に『目』が留まりました。子育てや仕事を終え、これから生け花をはじめバルーンアート、折り紙、書道、ぬり絵など色々なことに興味をもって楽しんでいけたらと思っていますが、こうして実際に作品を観ることでイメージがはつきり、良かったです」と話していました。

#### ◆「バランス考えた」と生花教室女性

また生花教室生徒として、タワタリ・ヒマ



→ヒマワリなどを自由な感じにまとめた川勝允恵さんの生け花(上)と、和紙の感触を生かした今坂マサ枝さんの折り紙作品『すけろく』(下)

ワリ・アンスリウム・ヒペリカム・デンファシの五花を二器に分けた作品を出展した川勝允恵さん(磯路)は「先生から未生流を習っていますが、この作品はそれにこだわらず自由な感じで作りしました。太ぶりのヒマワリやアンスリウムをポイントに、バランスを考えながら大きくまとめました」と話していました。

#### ◆「和紙の感触を」と港おりづる会女性

また「港おりづる会」会員として歌舞伎を題材にした折り紙作品『すけろく』を出品し、他に七宝焼やステンシルの作品も展示していた今坂マサ枝さん(八五)＝田中＝は「折り紙は和紙の柔らかな感触を感じてもらうため、切る時も、折る時も、貼る時も、軽くふわっとした感じで扱ったことが大切です。この『すけろく』はとても複雑で難しく、教室で二回ほどかけて仕上げました」と話していました。

#### ◆「作の上げる喜び」と墨絵同好会男性

また「墨絵同好会」会員として、渋く抑えた色調の『紫式部』や天狗のユーモラスな表情が印象的な『天狗の面』を出品した板東忠則さんは「もともと仏画に興味があつて水墨画を習

←渋い色調で紫式部を描いた板東忠則さんの墨絵(上)と、七枚の色紙と紐でこじんまりと可愛く組み立てた宮崎順子さんの小物入れ(下)

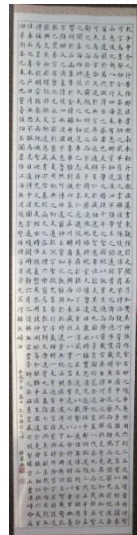
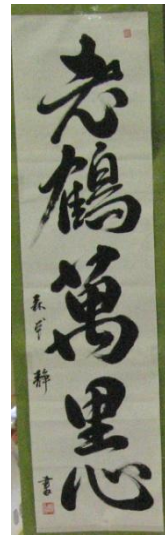


い始め、四〇五年になります。道真が紙と墨と筆だけで、シンプルなのが気に入っています。基本は墨二色ですが、(私の作品のように)顔彩で最少限の彩色をするのもできます。こうして皆さんに観てもらうのも嬉しいですが、何より自分の作品を作り上げることで自分が楽しいです」と話していました。

#### ◆「あなたも俳句をと同好会女性

また「俳句同好会」会員として『丹波十産ひろげ酌みけり 十三夜』の句を掲示し、来場者から質問攻めに遭っていた黒田房栄さんは「丹波特産の栗・芋・枝豆などをあてに、十三夜静かにお酒をいただいた時のイメージを句にし

「円熟の行書が注目を集めた森本静さんの『老鶴万里心』⑥と、孔子廟の碑から七五〇字を丹念に書き出した瀬溝桂子さんの作品⑦



ました」などと説明し、特に熱心に質問していた男性に「いい感覚をなさっていますね。あなたも俳句を始められてはいかがですか。楽しいですよ」と勧めていました。

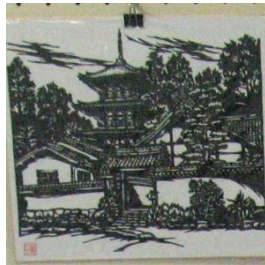
#### ◆「根気が要る千代紙イベント参加者

また「千代紙小物入れ」イベントに参加したという篠塚晴男さん(七八)＝港晴＝は、宮崎順子さんから生徒が花柄など色とりどりの千代紙で「じんまりと愛らしく作り上げた小物入れを指さしながら「七枚の色紙をこう組み合わせて作るんや。難しいことはないけど、丁寧な根気よつやる」ことが要(カネ)な」などと話してい

ました。

#### ◆解説つき書道なども注目

この他、「書道」では「年老いた鶴にもまたまた万里を飛ぶ心意気があるぞ」との解説を付け、円熟の行書で『老鶴万里心』と認めた森本静さんの作品や、孔子廟堂の碑文から七百五十もの漢字を端正な筆致で丹念に並べた瀬溝桂子さんの作品などが、「切り絵」では寺院風景などを繊細な切り込みで克明に表現した田畠隆子さんの作品などが、「ぬり絵」では水彩画のような趣(オモ)で果樹を色づけた池田ふみ子さんらの作品などが、「絵手紙」では『あきをまつ』の筆字にほのぼのタッチの黄ピーマンを配した岡元



→寺院風景を繊細な切り込みで表現した田畠隆子さんの切り絵⑤と、ほのぼのタッチの黄ピーマンを配した岡元美奈子さんの絵手紙⑧

「秋の風情を漂わせた清田和子さんのカーディガン⑨と、紫系の色で清楚にまとめ上げた橘川芳子さんのフラワーアレンジメント⑩



美奈子さんの作品などが注目を集めていました。

#### ◆秋の風情の編み物などにも関心

また「ステンシル」では田のTシャツに爽やかな「スモ」入をあしらった吉田英子さんの作品などが、「編み物」では宇治茶色を基調に赤や黒を蜘蛛の巣状に配色して深まる秋の風情を漂わせた清田和子さんのカーディガンなどが、「バルーンアート」では女性の姿をユーモラスに造形した若井恵子さんらの作品などが、「フラワーアレンジメント」では紫系の色でカーネーションなどを清楚に纏(まと)めた橘川芳子さんらの作品などが、「七宝焼」では「バルトブルー」も鮮やかな輪状ペンダントに仕上げた元橋(もとはし)があるさんらの作品が、それぞれ関心を集めていました。

文化的イベント案内

みなとカルチャ

● 港図書館

① 年末年始休館 十二月二十九日(月)から一月五日(月)まで。返却ポストは十二月二十八日(日)午後五時から一月四日(日)午前九時まで利用不可② 冬の子ども会 港子ども劇場が「ヘープサート」かきじくなどを上演。

幼児から小学生向け。十二月二十日(土)十時半〜十一時半に港区民センター「階」橘」で。当日先着四十名。申込不要③ おたのしみ会 毎週水曜日十五時半〜十六時、じゅうたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④ 図書展示 よつこ書物の森へ展 市立図書館司書一〇一人が「書物の森」というテーマに沿って選んだお勧め本を展示。十二月二十八日(日)まで開催中⑤ 図書展示 大阪を舞台にした小説「展」一月六日(火)から 〆八五七六・一三三四。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「Meet the Classic Voice 300 華麗なるニューイヤースタート」 同楽団の首席

指揮者・藤岡幸夫さんがクラシック&オーケストラのライブ感を伝える人気シリーズ。第一部は「新春を彩るフルツ&ポルカ」と題して、

① アンダーソン・舞踏会の美女② ヨハン・シュトラウス2世「フルツ」酒、女、歌 作品333③ ヨハン・シュトラウス2世「アンネン・ポルカ」作品117④ 「ゼフ・シュトラウス・ポルカ・マズルカ」とんぼ 作品204⑤ 「ハン・シュトラウス2世」フルツ・ウィーン 気質 作品354を。第二部は「岡本知高とのファンタスティックワールド」と題し、「強靱にして美しい...」の歌声は、



→ 指揮とお話を担当する関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者 藤岡幸夫さん(©SHIYAMAGISHI)と、独唱を担当するソプラニスタ・岡本知高さん(下)

ありえない！」と藤岡さんが絶賛するソプラニスタ・岡本知高さんを迎えて、① スッパ：喜歌劇

「詩人と農夫」序曲② スッパ：恋はやさし、野辺の花よ 喜歌劇「ボッカチオ」より③ ヘンデル：なつかしい木陰(オンブ・フ・マイ・フ) 歌劇「セルセ」より④ ヨハン・シュトラウス2世「フルツ」南国のぼろ 作品388⑤ 「ゼフ・シュトラウス・ポルカ・シユネル」憂いもなく 作品271⑥ ヨハン・シュトラウス2世：たで食つ虫も好き好き(オルロフスキーのアリア) 喜歌劇「こもり」より⑦ プッチーニ：誰も寝てはならぬ 歌劇「トゥランドット」より。一月二十五日(日)十五時からいずみホール(ＪＲ環状線「大阪城公園駅」歩三分、ＪＲ環状線 東西線「京橋駅」南口歩八分地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク駅」歩五分)で。一階席四千人、一階席三千円、学生席(十八歳以下、一階席のみ)二千円。全席指定・消費税込。無料託児サービスあり(先着 五十名、申込締切 一月十三日)。 〆八五七七・二三八一。

● 井田町ORC200生涯学習センター「和のしらべコンサート」

和楽器ユニット「響響」による津軽三味線・箏・太鼓・舞踊・唄などの演奏



で日本の名曲を楽しむ。曲目は『春の海』『秋

田大黒舞』『津軽アイヤ節』『黒石じょんから

『R-N-輪』など。一月十八日(日)十四時

から。先着二〇名。料金は当日千八百円、前

売千五百円。〇六五七七・一四二〇。

●井大町ORC2000生涯学習センター「押し

絵二日体験 来年の干支「未」の笑顔をテーマ

にカレンダー付きオリジナル押し絵づくりにチ

ヤレンジ。一月二十九日(木)十四時十八時。講

師は西川節子さん(大阪市生涯学習インストラ

クター)。定員 千名(先着順)。受講料千五百円

(教材費含む)。持ち物は目打ち・ピンセット・は

さみ。〇六五七七・一四二〇。

●井大町ORC2000生涯学習センター「中国

語会話入門・初級」中国語の発音と基礎

を中心に、習慣も学びながら、日本語自在の講

師と一緒に。一月十八日～二月二十七日の毎週

金曜日(二月十三日を除く)。①発音からの中国

語(入門)十八時十九時②楽しい中国語(初級)十

九時十分～二十時十分。受講料は各二万円(全十

回分)。定員は各十八名(先着)。講師は温玉芳

さん(大阪市教育局委員(会)通訳、大阪市立小学校中

国語教師)。〇六五七七・一四二〇。

●井大町ORC2000生涯学習センター・井大

シネマ倶楽部『欲望という名の電車』「心に

残る名作映画を低料金で多くの市民に」と旧・

井大町市民学習センター時代に企画され、人気

を博したイベントの再開第四回、通算第三十七

回。一家も財産も失い、妹を頼ってニューヨーク

リーンスの下町へやって来た末七人フランチ・

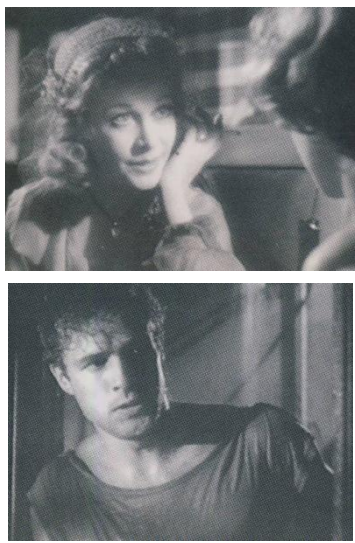
デュボア。妹スエラの夫フランシーは、高慢な

フランチに憤りと不信感を抱いていた。彼女も

また、粗野で暴力的なフランシーを嫌い、たび

たび衝突する。そんな中、フランシーの友人ミ

ッチと惹かれ合い、結婚も意識し始めたフラン



→井大シネマ倶楽部『欲望という名の電車』か

らヴィヴィアン・リー①とマーロン・ブランド

チ。だが、彼女には決して明かすことのできな

い重大な秘密があった。アカデミー主演女優

賞をはじめ四部門、ヴェネツィア国際映画祭審

査員特別賞、同女優賞など、多くの賞に輝いた

傑作。監督はエリア・カザン。出演はヴィヴィア

ン・リー、マーロン・ブランド、キム・ハンター他。

一九五二年、アメリカ、モノクロ、二二二分。

一月三十一日(土)十時と十四時から講堂で。料

金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回

先着百名。当日十二時十分頃からロビーで無料

ライブ(大正琴などがよし)会の演奏を予定。〇六

五七七・一四二〇。

●フランスのための映画会「八月」 波除

のフリースペース「石炭倉庫」で恒例の映画鑑

賞会「綾羽一紀」レクシヨンの第四回。ー「マ

マに会いたい」と施設を飛び出したダウン症の

青年ジオルジュと、仕事一筋で妻と娘に去られ

た孤独な中年男フリーが運命的に出会い、ママ

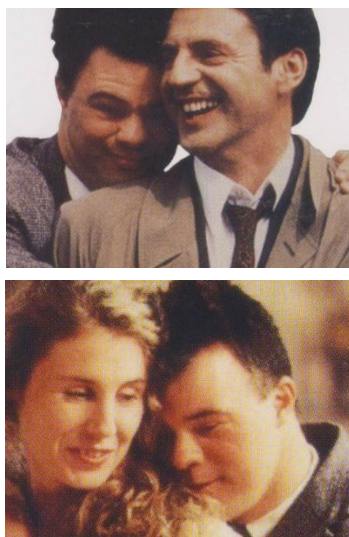
探しの旅に出る。一緒に過ごすうちに二つの心

は次第に溶け合い、互いの人生は大きく変わっ

ていく。ジャコ・ヴァン・ドルマル監督・脚

本・台詞。ワルテル・ヴァンデン・エンデ撮影。

←クリスマスのための映画会『八日』から



ピエール・ヴァン・ドルマル音楽。出演はダニエル・オートウイユ、パスカル・デュケンヌ、ミウ・ミウ他。十一月二十三日(火)祝十四時上映。十六時終了。その後、飲食とお話し会。参加費は千二百円(軽食・飲み物付)。詳細問い合わせは申し込み会場の石炭倉庫(波除六・五一八、JR弁天町駅から国道四三三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎六五八・〇六六四、チケット専用フリーダイヤル〇二二〇・三三四二・三九へ。

● **ねじやらしのシャンテ☆カフェ** 懐かしい歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四日曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)で。不定期にゲストを迎え、リ

←過去のねじやらしのシャンテ☆カフェから



クエスト中心に約一時間。歌集貸与。参加費千円(税込)。第九回(一月は会場の都品で第五土曜三十一日。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」(弁天四・一・一・三〇二) ☎六五八・六八八、<http://neeo.jyara.si.jimdo.com/>またははむずりはの会 ☎六五七・一六八四三まで。

● **ガットネロ** 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦田美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」HAMORR-BEE(はもりべ)のつた★カフェ「クラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽天王寺区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅③出口、 ☎八七六七・〇〇二二。

● **ギャラリーはたなが「mama cioro」**

展 「伝える」伝わる」をテーマにした温かな

感じの布作品を展示Ⅱ写真(左の上)は一例。十一月十八〜二十八日の十一〜十九時(二十四日(水)休み、最終日十七時まで)。磯路一・一一・五(港区役所向かい)。 ☎八五七・一五九八七。



● **ぎやらりー&かひえ風庵「木と語る 三尾英明 樵」** 「土地の古層の歴史と木の心を知る、二十一世紀の杣人」(元明治大学教授・後藤総一郎さん)といわれる岐阜の木工職人・三尾英明さんが、櫓や椀を材料に創作した器・家具・小物インテリアなどを展示Ⅱ写真(右の下)は一例。十一月十七日(土)まで開催中。「風庵」は南市岡三・二・一〇(繁栄商店街内)、 ☎四九六五・五九八(十時〜十八時開館(日曜定休)。

## ひとくちPR

(二行)税込二〇〇〇円)

●**そろばん学習で子どもが変わる！** 右脳活性  
見直される効用。そろばん教育は情緒を安定さ  
せ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」  
も強めよう。森友総合教室 **検索** (夕四一ー  
三七七三津神社西側 **五五七ー六八七七**)。

●**放課後・春夏冬休みは児童保育へ** 入所児童  
集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを  
指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇二三  
四(西原)か**五五七ー六八四三**あおぞら児童。  
●**児童保育で放課後・春夏冬休みを** 指導員が  
安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。入所児  
募集。体験可。 **五五七五・〇三三五**ありんじ。

●**介護のことはお任せ** ①介護や老いの相談  
に乗ります②介護の手続きを代行します③デイ  
サービスは送迎付きで入浴・昼食・手芸ゲーム・  
テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操お  
やつなどを楽しめます④訪問介護は賞物・掃除・  
洗濯・通院などを手伝います。NPOみなと共同  
ケアセンター(南田岡二一六・一六、**五五八三  
・四八八〇**、FAX**五五八三・一一二二**)。

●**何でも書けます、まじめず** 手紙・案内・  
報告・宣伝・司会などの文案。自分史・夫婦史・  
社史・団体史などの聞き書き。新聞・広報・書  
籍・会報などの取材・編集。 **五五七ー四八  
三六**港新聞・飯田編集事務所。

●**あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛  
も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。  
シングル掛(敷)ふとん一万円。ふとん館ひら  
のや(南田岡二一ー八 繁栄商店街東入口フ  
リーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。  
●**おしゃべり着いっぱい** 神戸メーカー直送、お  
出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブ  
ティック・ミント(八幡屋一四・八 入舟公  
園前、大阪信金横十ー十八時営業、日不定休)。

●**ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小  
中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。  
月会費八千円(無期限十枚つづりチケット八十  
円)。入会金二万円を月々半額。練習日は月・水・  
金の十九時半ー二十一時半。港ボクシングジム  
「三先一」二二九 [http://ameblo-  
jp/minatogym/](http://ameblo.jp/minatogym/)

## ひとくち伝言板

●**差し上げます** 寝たきり婦人用介護ねまき  
(ファスナー付M寸)新品一着。区内なら直接お  
渡し。 **五〇九〇・五八九八・一九四五**千石。  
※いづれもハガキに当日の感想とプレゼント  
名を書いて二日必着で港新聞へ。



## 読者プレゼント

●**関西フィル「ミート・ザ・クワンシツク30」**  
(みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

●**井天シネマ倶楽部「欲望という名の電車」**(み  
なとカルチャー)招待券をへア一組に。

●**井天ORC200生涯学習センター「和の  
しらべコンサート」**(みなとカルチャー)招待券  
をへア一組に。

●**あながいおまる一座「清新」**(演劇ガイド)  
招待券をへア一組に。